松井田町埋蔵文化財調査報告書第13集

松井田工業団地II遺跡

――信越化学工業株式会社「組立棟及び事務棟建設工事」
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

2005

松井田町教育委員会

松井田町埋蔵文化財調査報告書第13集

松井田工業団地II遺跡

――信越化学工業株式会社「組立棟及び事務棟建設工事」
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

2005

松井田町教育委員会

序

群馬県の南西部に位置する松井田町は、豊かな自然に囲まれた県境の町です。町の大部分を山地が占め、全国に知られる通行難所碓氷峠のある松井田町の歴史は、「峠越えの歴史」でもあります。縄文時代には石器の材料として黒曜石が運び込まれました。古代には東山道、江戸時代には五街道の一つ中山道、そして明治以降においてはアプト式鉄道などにより、多くの人々や物資が峠を越えて往来し、様々な文化がもたらされてきました。それらが礎となり現在の松井田町が築かれているのです。

さて、ここに報告いたします「松井田工業団地II遺跡」は、信越化学工業株式会社による「組立棟及び事務棟建設工事」に先立ち調査された遺跡です。遺跡地は碓氷川右岸の河岸段丘上、安中市との境界に位置しています。人見地区は比較的平坦な土地が多く、交通の便も良いため、工場や道路、店舗・住宅等の建設が多い地域です。遺跡地の周辺では、これまでにも、これらの開発事業に先立ち、「松井田工業団地遺跡」・「人見北原遺跡」・「西裏遺跡（安中市）」等が調査され、一帯には古墳時代から平安時代にかけて大集落が存在していたことが分かっています。今回の調査により、新たに同時期の住居16軒等が検出されました。この発掘調査の成果が、人見地区の歴史解明の一助となれば幸いです。

遺跡は調査することにより破壊されてしまいます。そして、破壊された遺跡は二度と元の姿には戻りません。本書を十分に活用し、かつて存在した遺跡の姿を後世に伝えていくことは、私たちの重大な責務であると考えています。

最後になりましたが、発掘調査に従事された方々をはじめ、現地調査から本書刊行に至るまで多くのご理解・ご協力いただきました皆様に心より感謝を申し上げて序といたします。

平成17年３月25日

松井田町教育委員会
教育長　小　林　一　郎

例　言

1．本書は、信越化学工業株式会社工場増設に先がけた埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査主体　松井田町教育委員会である。
3．発掘調査は松井田町教育委員会の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（前橋市青柳町221-１代表取締役　須永眞弘）が実施した。
4．調査担当者　金子正人・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
　調　査　員　板垣　宏・山口和宏・猪熊正晴（スナガ環境測設株式会社）
5．遺　跡　名　松井田工業団地Ⅱ遺跡
6．所　在　地　群馬県碓氷郡松井田町大字人見字北原60番地２他
7．調 査 期 間　発掘調査　平成16年８月26日～平成16年10月26日
　　整理期間　平成16年10月４日～平成17年３月25日
8．調 査 面 積　1,980㎡
9．調査経費は開発事業者である信越化学工業株式会社がその全てを負担した。
10．出土遺物及び図面等の資料は松井田町教育委員会が一括して保管している。
11．発掘調査は松井田町教育委員会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が調査にあたり、測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…金子正人・荻野博巳、測量調査…板垣　宏・山口和宏・猪熊正晴、発掘調査の安全管理…都丸保男・猪熊正晴、作業事務…須永　豊・柴崎信江が担当した。
12．本書は松井田町教育委員会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が作成にあたり、原稿執筆…Ⅰについては壁伸明（松井田町教育委員会）、その他の執筆・構成・編集…須永眞弘・金子正人・荻野博巳、測量図書の管理・修正…猪熊正晴、遺物実測図のトレース・版下作成…荻野博巳・山口和宏、遺物観察・整理…金子正人・神津芳夫、遺物の洗浄・注記…小暮幸子・山本良政・上村智恵子・山本恵美子・下田和子、接合・復元…都丸保男・柴崎信江・渡辺国治・須永　豊、遺物実測図…戸根浩美・佐々木智恵子、文書清書…金子恵子、内業事務…柴崎信江・須永　豊が担当した。
13．発掘調査に参加した方々（敬称略）

上村一視	渡辺国治	下田和子	片貝誠二	岩島　勝	片貝好雄	高橋　稔	戸高久暉
山本吉輝	櫛島一廣	長谷純則	須藤　豊	中根　戌	三橋秀雄	桐木日出男	大塚喜義
大塚涼子	松本　芳						

凡　例

1　遺跡の略称は、松井田工業団地Ⅱ遺跡（MK Ⅱ）である。
2　遺構名の略称　竪穴住居跡…H、土坑…D、ピット…P、溝跡…W。実測図中の記号　P…土器、S…石。
3　実測図の縮尺は、次のとおりである。
　遺跡平面図（1/200）、住居跡・ピット・土坑・貯蔵穴（1/80）、カマド（1/40・1/80）、周溝状遺構（1/80・1/200）、土坑・ピット（1/200）、溝跡（1/80・1/200）、遺物実測図（1/3・1/6・1/10）を使用した。
4　挿入図は、国土地理院発行の２万５千分の１「松井田」を使用した。
5　遺跡の位置の基準は、工場増設に伴い設置した測量データー旧国家座標第Ⅸ系座標値T-5（X 33059.882、Y -89130.027）とT-5-B（X 33073.405、Y -89054.449）及び水準点はBM…227.096mを使用し調査区にBM…227.000mを設定した。等高線は10cm、グリッドは４m間隔で行った。
6　土層断面の土色名及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局 監修 財団法人 日本色彩研究所 色票監修）による。
7　煤付着 … 　釉の部分 … 　を使用。
8　各遺構の面積は平面図をもとに座標面積計算により算出した。
9　本文中の（　）は推定値、［　］は検出値を表す。また各表についてはそのつど表記した。

目　次

序
例言・凡例
目次・挿図・表・写真図版
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境……1
　1．遺跡の立地……1
　2．歴史的環境……1
Ⅲ　調査の経過……3
　1．調査方針……3
　2．調査経過……3
Ⅳ　基本土層……3
Ⅴ　遺構と遺物……4
　1．竪穴住居跡……4
　2．周溝状遺構……7
　3．土　　坑……7
　4．ピ ッ ト……8
　5．溝　　跡……8
Ⅵ　ま と め……9

挿　図

第1図　周辺遺跡図……2
第2図　基本土層断面図……3
第3図　松井田工業団地Ⅱ遺跡平面図……15
第4図　H-1・2・15・16号住居跡、3号周溝状遺構平面・断面図……17
第5図　H-3号住居跡平面・断面図……18
第6図　H-3～7号住居跡平面・断面図……19
第7図　H-5～10号住居跡平面・断面図……20
第8図　H-9～13号住居跡平面・断面図……21
第9図　H-13・14号住居跡、1・2号周溝状遺構、W-1・2号溝平面・断面図……22
第10図　H-1・3～8号住居跡出土遺物実測図……23
第11図　H-9・11～15号住居跡、D-3・4・10号、M9グリッド、MKⅡ出土遺物実測図……24
第12図　D-13号、グリッド出土遺物実測図……25

表

第1表　周辺遺跡概要一覧表……2
第2表　土坑一覧表……8
第3表　ピット一覧表……8
第4表　出土遺物観察表（古墳時代以降）……12
第5表　石器観察表……13
第6表　縄文土器観察表……14

写真図版

図版1　調査区全景、調査前全景、H-1・16号住居跡、3号周溝状遺構全景、H-2・15号住居跡全景、H-15号住居跡遺物出土状況
図版2　H-3号住居跡全景、H-3号住居跡遺物出土状況、H-3号住居跡カマド全景、H-4号住居跡全景、H-4号住居跡遺物出土状況、H-5～7号住居跡全景、H-5号住居跡遺物出土状況、H-7号住居跡遺物出土状況
図版3　H-7号住居跡カマド全景、H-8号住居跡全景、H-9・10号住居跡全景、H-11～13号住居跡全景、H-11号住居跡遺物出土状況、H-12号住居跡カマド全景、H-14号住居跡全景、H-14号住居跡遺物出土状況
図版4　1号周溝状遺構全景、2号周溝状遺構全景、D-4号土坑全景、D-4号土坑遺物出土状況、D-10号土坑全景、I-4グリッド付近ピット群全景、1号溝全景、2号溝全景
図版5　H-1・3～9・11～15号住居跡出土遺物
図版6　D-3・4・10・13号、グリッド、MKⅡ出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

碓氷川右岸に位置する人見地区は、町内においては比較的開発事業が多く行われ、古くからの田園風景と、開発の波を感じる新しい風景とが混在している地域である。これまでにも、信越化学松井田工場・県道磯部停車場妙義山線等の建設工事に先立ち埋蔵文化財発掘調査が行われ、古墳時代から平安時代を中心とした大規模な集落の存在が確認されていた。

平成16年７月30日、「信越化学工業株式会社　代表取締役社長　金川千尋」（以下信越化学）より松井田町教育委員会（以下教育委員会）に、組立棟及び事務棟建設予定地域内における埋蔵文化財確認のための試掘調査依頼が提出された。これを受け同年８月３日に信越化学と教育委員会で協議し、①周囲（松井田工業団地遺跡・人見北原遺跡・西裏遺跡）は過去に調査されており、今回の開発予定地が遺跡地であることはほぼ確実であり、また遺構量もある程度推測できる。②着工までに時間的余裕がない。以上の２点から、試掘調査を行わず本調査を実施することで合意した。８月13日、信越化学と松井田町で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。また、両者で調査実務の民間機関への委託を申し合わせた上で、松井田町とスナガ環境測設株式会社とで埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、平成16年９月３日発掘調査が開始された。

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

１．遺跡の立地

松井田工業団地Ⅱ遺跡は、松井田町役場から南東方向へ約4.7㎞の碓氷郡松井田町大字人見字北原60－２他に所在する。

松井田町の南東部で突出した位置にあり、安中市磯部と郡境を界に接している。北方約700ｍには、長野県境より源を発し山間地やその下流で中尾川、入山川、霧積川、中木川と合流し東流する碓氷川が位置する。その中流域の両岸には河岸段丘が形成され、段丘面が居住区域となっており、左岸の段丘上には、中山道（現国道18号線）が、右岸側にはJR信越本線や県道磯部停車場妙義山線が並走している。

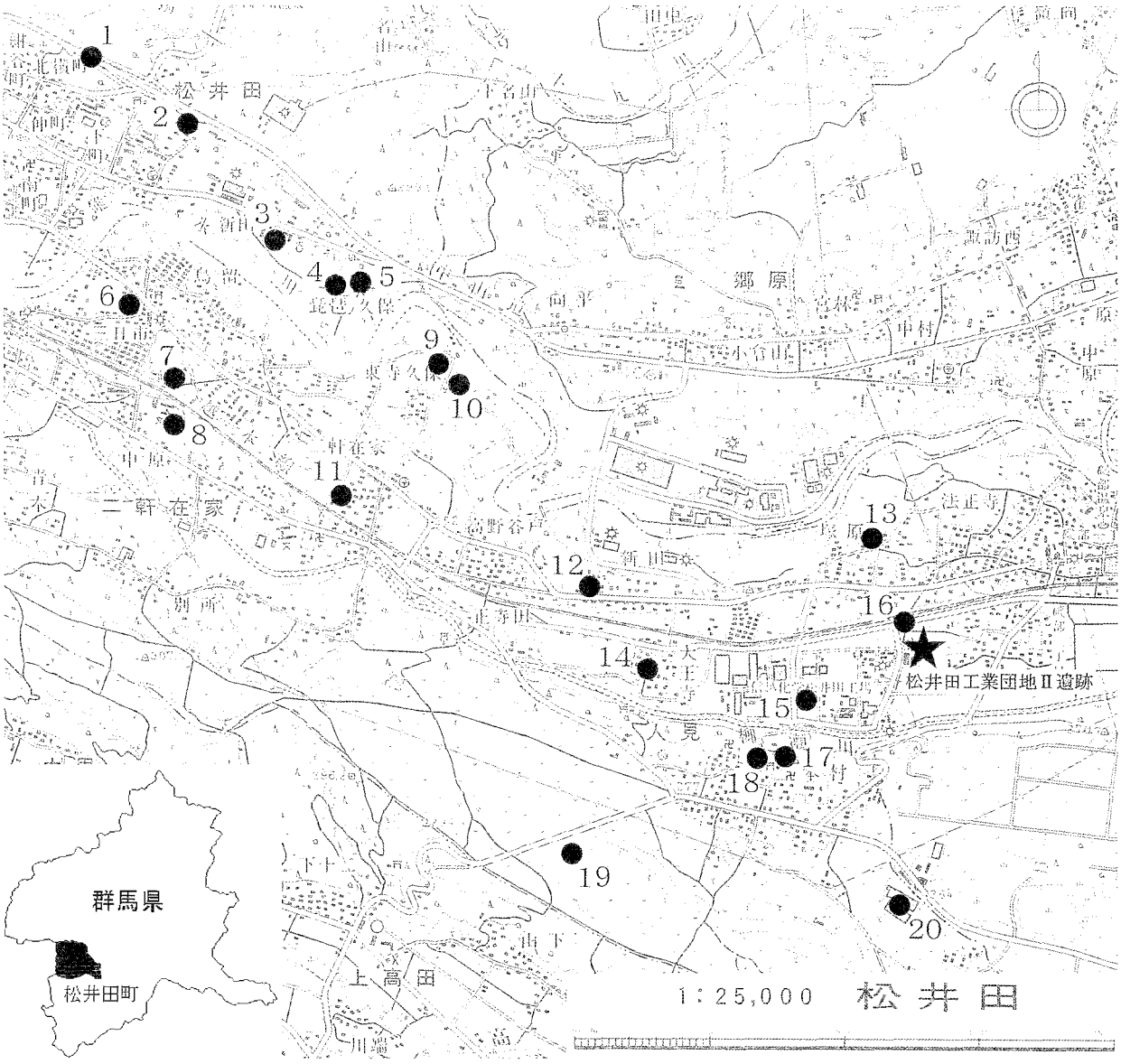
遺跡は、碓氷川右岸の西横野丘陵にそった南段の上段（人見丘陵面）と下段の２段を形成する下段に位置し、遺跡の標高は226.20ｍ～227.00ｍを測り、南東に向かって緩やかに傾斜している。

遺跡地からは、西を望めば妙義山や有史以前から度重なる噴火を繰り返し、今なお噴煙を上げる浅間山の威容が窺える。

２．歴史的環境

松井田工業団地Ⅱ遺跡の周辺には、北～西方にかけた碓氷川の段丘上の松井田、西横野・塚原・足名田・法正寺地区などには終末期古墳の分布が多く見られる。また、大規模調査が行われた松井田工業団地遺跡も西側に隣接し、古墳時代～奈良・平安時代までの集落跡や浅間Ｂ軽石水田跡など検出され、同じく北側には本遺跡に継続する人見北原遺跡が存在し古墳時代と平安時代の住居跡や近世の道路状遺構が検出されており、本遺跡との関連性が窺える遺跡である。また、付近では縄文集落の検出例がほとんどなく本遺跡の東側にある郡境界を挟んだ安中市域で縄文中期の住居跡が１軒報告されているのみで縄文時代についての資料が少ない地区である。

ここで、周辺の遺跡分布状況を概観すると第１図に示した位置にある。



第１図　周辺遺跡図

№	名　　称	時　代	概　　要　　他
1	愛宕山遺跡	奈良～平安	住居跡５軒が検出されており、うち１軒の焼失家屋では多種の生活用具が炭化物と共に残存。
2	松井田塚越遺跡	縄文～古墳	縄文時代土坑、敷石住居跡？１軒、古墳時代遺物包含層。
3	松井田５号墳	古墳	墳丘は削平され、石室部が僅かに残る。本墳以下全て横穴式石室の小円墳である。
4	松井田３号墳	古墳	石室は土中に残存しているようである。墳丘上部は削平。
5	松井田２号墳	古墳	ほとんど原形を留めていない。石室奥壁と側壁基部の石が少々残存。
6	八城三日市遺跡	縄文～平安	縄文中期住居跡４軒、土坑12基、平安時代溝跡を検出。
7	二軒在家東光寺遺跡	縄文～平安他	縄文住居跡２軒、平安時代掘建柱建物跡２棟、土坑、溝跡等。
8	西横野５号墳	古墳	石室の大石が少々存在する他はほとんど原形を留めない。
9	西横野20号墳	古墳	石室の一部を残すのみ。
10	西横野21号墳	古墳	墳丘部は残存しない。畑地面に玄室部の石が数個並んでいるのみ。
11	河田陣屋	近世	単郭環壕址、元和２年旗本河田政親により築かれる。
12	西横野６号墳	古墳	戦前の調査で直刀２振りが出土している。宅地内にあり、墳丘部は植え込みになっている。
13	塚原古墳群	古墳	10数基の小円墳群。数基は消滅し、うち１基は前方後円墳の可能性が指摘されている。
14	大王寺城	中世	方形館址か。上原兵庫の城と伝えられる。
15	松井田工業団地遺跡	古墳～平安	古墳から平安時代の住居跡445軒、掘立柱建物跡11棟、Ｂ軽石下の水田、古墳、井戸検出。
16	人見北原遺跡	古墳・平安・近世	古墳・平安時代住居跡、ピット群、土坑、近世の道路状遺構。
17	人見谷津遺跡	縄文～中世	焼失家屋２軒検出。弥生後期の良好な一括遺物を伴う。他に縄文中期土器、人見城堀切址等。
18	人見城	中世	人見丘陵北面に築かれた山城。東西230m、南北150m。足利氏人見四郎恩和の館として創建。
19	上人見遺跡	弥生	昭和40年、県立博物館と東京大学との調査で、弥生中期の甕、壺等が検出されている。
20	人見東原遺跡	古墳	古墳時代住居跡３軒検出。

第１表　周辺遺跡概要一覧表

Ⅲ　調査の経過

1．調査方針

調査実施に際し基準点、水準点については、工場増設に伴い設置した測量データ(安中市大成測量作成)を使用した。

使用したデータにより旧国家座標第Ⅸ系座標値T-5（X 33059.882、Y -89130.027）とT-5-B（X 33073.405、Y -89054.449)、水準点BM…227.096mを基準として調査区に測設した。

基準点は北西にA-0を公共座標X 33080.000、Y -89120.000を設定し、発掘調査対象地に4m単位の調査グリッドを設定した。調査グリッドの緯線はアルファベッドで北から南方向へA・B・C…、経線は算用数字で西から東方向へ1・2・3…を付け、北西交点をグリッドとした。水準点は調査区東側中央の壁上にBM…227.000mを測設して基準とした。

図面作成は1：10、1：20、1：40、1：100の縮尺を基本として平板、遣り方により細部測量で作図を行った。遺物は遺構・グリッド単位で層位毎に収納し、遺物分布平面図、遺物台帳に記載し付番処理して収納した。また、遺構・遺物の写真撮影（白黒、リバーサル）も行った。

2．調査経過

発掘調査に際しては信越化学工業株式会社の手配したプレハブ・テント・机・椅子・トイレ・表土掘削用重機を使用した。遺構確認は、文化財担当の立ち会いのもと行った。

平成16年9月3日より表土掘削終了後にジョレン掛け、遺構確認を行い、住居跡・周溝状遺構・土坑・ピット・溝を確認し、住居跡より発掘に入る。また、調査区にグリッド杭、ベンチ杭を設定し、遺構の測量・記録作業も順次進めた。

10月は各遺構の仕上げ段階に入り、重複住居の見極めや仕上げ、遺物取上などの記録作業を進めた。また、完掘した遺構の写真撮影も行い、10月18日に調査区の高所写真撮影を行った。

また、遺構確認面で出土した縄文土器の分布範囲については、10月26日に壁伸明文化財担当の指導のもとトレンチを3ヶ所入れ遺構確認を行ったが縄文時代の遺構は検出されなかったので遺物包含層とし調査を終了した。

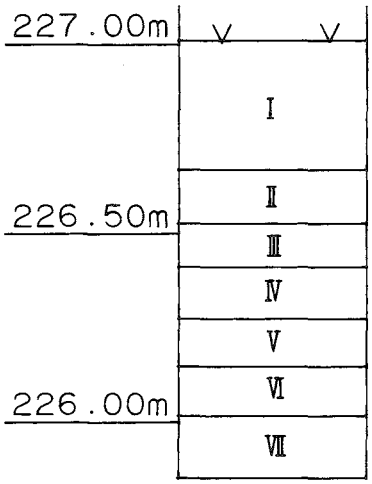
整理作業

平成16年9月24日より報告書作成を含めた整理作業を開始した。まず遺物の水洗い・注記→接合・復元・観察表の作成・実測図の作成等の順で行い、並行して遺構図面の整理と各種台帳作成整理、写真の整理・トレースの順で報告書の作成作業に入り平成17年3月25日に報告書を発行した。

Ⅳ　基本土層

Ⅰ．灰黄褐色土10YR4/2粘性・締まりなくAs-A軽石φ2～10mmを20%含む
Ⅱ．黒褐色土10YR3/2粘性・締まりややありAs-A軽石φ2～5mmを2%含む
Ⅲ．暗褐色土10YR3/3粘性・締まりあり軽石φ1～2mmを1%含む
Ⅳ．暗褐色土10YR3/3粘性・締まりあり軽石φ1～2mmを3%含む
Ⅴ．にぶい黄褐色土10YR4/3粘性・締まりあり軽石φ1～2mmを1%とロームブロックを僅かに含む
Ⅵ．にぶい黄褐色土10YR5/4粘性ややあり・締まりあり軽石φ2～3mmと小礫、5層ブロック含む
Ⅶ．明黄褐色ローム層10YR6/8粘性・締まりあり

本文中に使用した略号は以下の通りである。
As-A軽石；1783年降下浅間山起因の軽石層
基本土層は北壁断面②をもとに模式的に断面図を作成した。



第2図　基本土層断面図

V　遺構と遺物

1．竪穴住居跡

H－1号住居跡 〔第3・4図、図版1〕

位置 Ⅰ-10・11グリッド **形状**（横長の隅丸長方形）。**重複** H-16・周溝状-3、カクラン入る。**長軸方向** N-24°-W **規模** 長軸[3.53]m、短軸[2.82]m、壁高30～38cm。**面積** (9.09)m² **床面** ロームの堅い床でやや凹凸あり。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** 検出されず。**貯蔵穴** 南東隅、長径66cm、短径53cm、深さ36cmの楕円形。**カマド** 東壁中央南寄り。**主軸方向** N-56°-E **規模** 全長72cm、最大幅61cm、焚口部幅27cm。**残存状況** カマドの形状が残りよく焼けている。**遺物** 総数174点。須恵器羽釜、土師器甕、土錘など№1～3を掲載した。

H－2号住居跡 〔第3・4図、図版1〕

位置 Q－6グリッド **形状** 南側調査区外のため不明。**重複** H-15と北西側が重複し掘り込んでいる。**長軸方向** 不明。**規模** 長軸[2.60]m、短軸[1.50]m、壁高40～44cm。**面積** [3.61]m² **床面** 中央から西側がやや高い貼床で炭化物を含み堅い。**壁周溝** 東・北壁側の一部に巡る。**柱穴** 北壁側中央、長径40cm、短径36cm、深さ32cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 調査区外と思われる。**遺物** 総数16点。土師器・須恵器片など出土した。

H－3号住居跡 〔第3・5・6図、図版2〕

位置 G・H・I－6・7・8グリッド **形状** 正方形。**重複** D-14、カクラン入る（カマド付近）。**長軸方向** N－9°-W **規模** 長軸7.76m、短軸7.36m、壁高46～65cm。**面積** 53.05m² **床面** ロームの堅い床面。南東・南西側に3～4cmの床高範囲あり。**壁周溝** ほぼ全周する。**柱穴** P1北西側、長径32cm、短径30cm、深さ33cmのほぼ円形。P2北西側、長径32cm、短径26cm、深さ51cmの楕円形。P3北西側、長径39cm、短径37cm、深さ49cmのほぼ円形。P4北西側西壁寄り、長径33cm、短径28cm、深さ47cmの楕円形。P5西壁中央、長径44cm、短径34cm、深さ48cmの楕円形。P6南西隅、長径23cm、短径23cm、深さ31cmの円形。P7南壁中央、長径30cm、短径29cm、深さ25cmの円形。P8中央西寄り、長径34cm、短径29cm、深さ9cmの楕円形。P9中央東寄り、長径28cm、短径28cm、深さ29cmの円形。P10北東側、長径33cm、短径27cm、深さ24cmの楕円形。P11北東側、長径22cm、短径20cm、深さ44cmのほぼ円形。P12南東隅、長径23cm、短径22cm、深さ31cmの円形。P13南壁中央、長径28cm、短径19cm、深さ16cmの楕円形。P14東壁側北寄り、長径32cm、短径29cm、深さ13cmの楕円形。P15北西側西壁寄り、長径29cm、短径21cm、深さ22cmの楕円形。P16北壁側西壁寄り、長径36cm、短径27cm、深さ16cmの楕円形。P17北東側西壁寄り、長径31cm、短径25cm、深さ14cmの楕円形。**貯蔵穴** 北東隅、長径79cm、短径52cm、深さ56cmの長方形。**カマド** 北壁の中央やや東寄り。**主軸方向** N-42°-E **規模** 全長71cm、最大幅120cm、焚口幅35cm。**残存状況** 北壁に対し、北東方向に作られ煙道部付近にカクランが入る。**遺物** 総数484点。須恵器坏・皿、土師器坏・高坏など№1～7を掲載した。

H－4号住居跡 〔第3・6図、図版2〕

位置 J・K－5グリッド **形状** 横長の隅丸長方形。**重複** なし。**長軸方向** N－9°-E **規模** 長軸3.22m、短軸2.50m、壁高24～33cm。**面積** 7.46m² **床面** ロームの堅い床でやや中央が高い。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** P1北東側、長径59cm、短径51cm、深さ18cmの楕円形。P2西壁寄り、長径39cm、短径37cm、深さ16cmの円形。P3南東隅、長径52cm、短径45cm、深さ26cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 東壁南寄り。**主軸方向** N-92°-E **規模** 全長73cm、最大幅103cm、焚口幅49cm。**残存状況** 形状が残り北壁側がよく焼けている。**遺物** 総数133点。須恵器高台付椀№1～3を掲載した。

H-5号住居跡 〔第3・6・7図、図版2〕

位置 I・J-3・4グリッド。**形状** 正方形。**重複** H-6と重複しH-5が新しい。**長軸方向** N-2°-E **規模** 長軸3.04m、短軸2.82m、壁高16～22cm。**面積** 8.28m² **床面** にぶい黄褐色土の堅い床で小石を少し含む。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** 検出されず。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 東壁側中央やや南寄り。**主軸方向** (N-74°-W) **規模** 全長(56)cm、最大幅60cm、焚口幅42cm。**残存状況** 半分以上がカクランにより壊されている。左壁に焼けた軟質の石材一個が残り、四角に加工してある。**遺物** 総数108点。鉄製品刀子、須恵器坏など№1～2を掲載した。

H-6号住居跡 〔第3・6・7図、図版2〕

位置 J・K-3・4グリッド **形状** 縦長の隅丸長方形。**重複** H-5(北側)、H-7(南側)と重複している。**長軸方向** N-3°-E **規模** 長軸3.20m、短軸2.51m、壁高24～33cm。**面積** 7.76m² **床面** ロームの堅い床面。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** 検出されず。**土坑** D-1南西側、長径70cm、短径66cm、深さ40cmほぼ円形、底部より土師器甕片出土。**カマド** 北壁と東壁側に焼土を確認し調査に入るが東はカマドにならなかった。北カマドは北壁側中央やや東寄りに位置する。**主軸方向** N-4°-E **規模** 全長55cm、最大幅50cm、焚口幅32cm。**残存状況** H-5に壊されている。焚口部のみ焼土が見られる。**遺物** 総数87点。須恵器坏№1を掲載した。

H-7号住居跡 〔第3・6・7図、図版2・3〕

位置 J・K-3・4グリッド **形状** ほぼ正方形。**重複** H-6と重複し掘り込んでいる。**長軸方向** N-6°-E **規模** 長軸2.86m、短軸2.78m、壁高12～20cm。**面積** 8.00m² **床面** にぶい黄褐色土の堅い貼床。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** 検出されず。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 東壁側ほぼ中央。**主軸方向** N-75°-W **規模** 全長70cm、最大幅54cm、焚口部40cm。**残存状況** 壁面に自然石を組み、燃焼部中央に支脚石を使用。**遺物** 総数58点。須恵器高台付埦、灰釉陶器高台付埦、土師器甕など№1～4を掲載した。

H-8号住居跡 〔第3・7図、図版3〕

位置 G・H-1・2グリッド **形状** 西側は調査区外で不明。**重複** なし。**長軸方向** 不明。**規模** 南北[4.46]m、東西[1.98]m、深さ28～34cm。**面積** [7.81]m² **床面** ロームの堅い床面やや凹凸あり。**壁周溝** 検出されず **柱穴** P1北東側、長径27cm、短径23cm、深さ25cmの楕円形。P2南東側、長径27cm、短径21cm、深さ25cmの楕円形。P3南壁中央寄り、長径30cm、短径23cm、深さ33cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 西側は調査区外のため不明。**遺物** 総数64点。須恵器大甕№1を掲載した。

H-9号住居跡 〔第3・7・8図、図版3〕

位置 M・N-7グリッド **形状** 横長の隅丸長方形。**重複** H-10と重複し北側を掘り込んでいる。**長軸方向** N-5°-E **規模** 長軸3.34m、短軸2.78m、深さ18～37cm。**面積** 8.78m² **床面** にぶい黄褐色土の堅い床面。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** P1西壁側中央、長径50cm、短径44cm、深さ12cmのほぼ円形。P2東壁側中央、長径64cm、短径54cm、深さ23cmの楕円形。P3北東寄り、長径38cm、短径30cm、深さ9cmの楕円形。P4南東側、長径90cm、短径52cm、深さ16cmの楕円形。P5中央やや南寄り、長径74cm、短径60cm、深さ28cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 東壁側南寄り。**主軸方向** N-98°-E **規模** 全長53cm、最大幅54cm、焚口幅37cm。**残存状況** 両袖に自然石を使用。**遺物** 総数41点。灰釉陶器高台付埦№1を掲載した。

H-10号住居跡 〔第3・7・8図、図版3〕

位置 M-6・7、N-7グリッド **形状** 不明。**重複** H-9と重複し壊されている。**長軸方向** 不明。**規模** 南北(2.03)

m、東西(2.71)m、深さ[34～38]cm。**面積** [4.67]m² **床面** ロームの堅い床。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** P 1北壁寄り中央、長径32cm、短径30cm、深さ10cmの円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 不明。**遺物** 総数6点。須恵器甕片など出土した。

H-11号住居跡 〔第3・8図、図版3〕

位置 N・O-5・6グリッド **形状** 正方形。**重複** W-2、H-12と重複し壊されている。**長軸方向** N-78°-E **規模** 長軸3.88m、短軸3.62m、深さ24～31cm。**面積** 13.06m² **床面** ロームの堅い床面で全体に木の根などのカクラン入る。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** 検出されず。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 北壁側ほぼ中央。**主軸方向** (N-17°-W) **規模** 全長[73]cm、最大幅[66]cm、焚口幅[41]cm。**残存状況** W-2やカクランにより右袖が壊されている。**遺物** カマド左袖付近に土師器甕出土、完形に近い。総数90点。土師器小型甕・長胴甕など№1、2を掲載した。

H-12号住居跡 〔第3・8図、図版3〕

位置 N-4・5グリッド **形状** 横長の隅丸長方形。**重複** H-11・13と重複し掘り込んでいる。H-12が一番新しい。**長軸方向** N-40°-W **規模** 長軸3.34m、短軸2.60m、深さ16～23cm。**面積** 8.14m² **床面** ロームの堅い床面。カマド前や北西側にカクラン入る。**壁周溝** 東壁・西壁の一部と北壁側に巡る。**柱穴** P 1北東側、長径73cm、短径60cm、深さ20cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 東壁側中央やや南寄り。**主軸方向** N-87°-E **規模** 全長74cm、最大幅90cm、焚口幅50cm。**残存状況** カマドの右袖に2石、左袖に1石自然石を使用、また焚口部にカクラン入る。**遺物** 総数99点。須恵器高台付埦№1を掲載した。

H-13号住居跡 〔第3・8・9図、図版3〕

位置 N・O-3・4グリッド **形状** 正方形。**重複** H-12と重複、遺物からH-13が古い。南西側はカクランにより一部壊されている。**長軸方向** N-58°-E **規模** 長軸4.11m、短軸4.10m、深さ40～54cm。**面積** [13.99]m² **床面** ロームの堅い床面。カマド前から北西方向にかけてカクランの穴が並び、南西・南東壁側も一部壊されている。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** P 1南東側東寄り、長径39cm、短径35cm、深さ14cmの円形。**土坑** D-1南東隅、長径77cm、短径65cm、深さ22cmの長方形。位置形状から貯蔵穴と思われる。**カマド** 東壁側中央。**主軸方向** N-60°-E **規模** 全長72cm、最大幅69cm、焚口幅35cm。**残存状況** 焚口部、燃焼部にカクランが入り壊されている。形状は両袖と燃焼部東壁がわずかに残る。また右袖前に軟質で板状の薄い石材出土。**遺物** 総数96点。土師器甕№1を掲載した。

H-14号住居跡 〔第3・9図、図版3〕

位置 O・P-3・4グリッド **形状** 縦長の隅丸長方形。**重複** なし。**長軸方向** N-69°-W **規模** 長軸4.02m、短軸3.34m、深さ39～47cm。**面積** 12.49m² **床面** ロームの堅い床面。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** P 1北東寄り、長径46cm、短径34cm、深さ20cmの楕円形。P 2北西寄り、長径56cm、短径31cm、深さ15cmの楕円形。P 3南西寄り、長径59cm、短径52cm、深さ16cmの楕円形。P 4南東隅、長径38cm、短径26cm、深さ38cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 東壁側、中央やや南寄り。**主軸方向** N-63°-W **規模** 全長96cm、最大幅50cm、焚口部幅32cm。**残存状況** 形状はほぼ完形で残る。**遺物** 総数40点。土師器甕№1を掲載した。

H-15号住居跡 〔第3・4図、図版1〕

位置 G-5・6グリッド **形状** 正方形。**重複** H-2と重複し掘り込まれている。**長軸方向** N-81°-W **規模** 長軸3.10m、短軸2.92m、深さ75～76cm。**面積** 8.08m² **床面** ロームの堅い床面。**壁周溝** ほぼ全周する。**柱穴** P 1北西側、長径27cm、短径22cm、深さ12cmの楕円形。P 2南西隅、長径37cm、短径32cm、深さ16cmのほぼ円形。P 3南東隅、長

径44cm、短径41cm、深さ77cmのほぼ円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 検出されず。**遺物** 総数89点。土師器小型壺・坏・小型甕などNo.1～3を掲載した。

H-16号住居跡 〔第3・4図、図版1〕

位置 I・J-10・11グリッド **形状**（正方形）**重複** H-1・周溝状-3と重複しH-1に掘り込まれている。**長軸方向**（N-52°-W）**規模** 長軸(3.87)m、短軸(3.15)m、深さ19～35cm。**面積** (11.52)m² **床面** ロームの堅い床面。**壁周溝** 検出されず。**柱穴** P1北西隅、長径34cm、短径32cm、深さ24cmのほぼ円形。P2南壁寄り、長径32cm、短径24cm、深さ27cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されず。**カマド** 不明。**遺物** 総数19点。土師器甕、坏片など出土した。

2．周溝状遺構

1号周溝状遺構 〔第3・9図、図版4〕

位置 E・F-7・8グリッド **形状** 半円形で北側の約半分は調査区外。**規模** 台部：長軸[3.50]m、短軸[1.85]m。全体：長径[4.60]m、短径[2.45]m。**長軸方向** N-80°-E 検出値最大幅の所で測る。**周溝** 緩やかなU字形を呈する。上幅45～66cm、下幅24～43cm、深さ18～30cm(壁断面では上幅72～104cm、下幅22～40cm、深さ39～45cm)。**残存状況** 南側約半分検出、北側は調査区外。**時期** 土師器片など20点が出土したが特定できる遺物はなく、土層断面では基本土層のIII層よりの掘り込みが見られることで平安時代以前と思われる。

2号周溝状遺構 〔第3・9図、図版4〕

位置 I-9、J-8・9・10、K-9・10グリッド **形状** U字形で北東側で切れている。**規模** 台部：長軸4.60m、短軸4.40m。全体：長軸5.70m、短軸5.30m。**周溝** 緩やかなU字形を呈する。上幅42～60cm、下幅18～40cm、深さ22～37cm。**残存状況** 北東方向は周溝が検出されず、他は楕円形に周溝が巡る。**時期** 縄文土器・土師・須恵器片など51点が出土したが特定できる遺物はなかった。

3号周溝状遺構 〔第3・4図、図版1〕

位置 I・J-10・11グリッド。**形状** 部分的に3ケ所検出した。**重複** H-1・16と重複し、北側の部分は、H-1に壊されている状況が断面に見られ、他の2ケ所ではH-16に壊されている状況が見られる。**長軸方向** 不明。**周溝** 検出範囲で緩やかなU字形。上幅30～60cm、下幅20～38cm、深さ6～31cm。**残存状況** H-1・16と重複し、部分的に3ケ所検出した。全体は不明である。**時期** 縄文・土師器片が3点出土したが特定できる遺物はなく、H-1・16に切られていることで、少なくとも平安時代以前と思われる。

3．土　坑 〔第3図、図版4〕

調査区の北側F-7グリッド、中央K-8グリッド、西壁寄り中央L-5グリッド、南側Q-5グリッド付近にまとまって14基検出した。形状は楕円形・隅丸方形である。楕円形のものは覆土や底に炭化物が、壁面に焼土跡が残るものが多くあった。遺物は、覆土より縄文土器片や土師・須恵器片など少量出土している。隅丸方形のものは、D-4・10があり他より規模が大きく底より土師器甕・坏など6世紀後半代の遺物の出土があった。用途については、楕円形と隅丸方形とは形状や規模の異なる点や出土遺物等に違いが見られるが、共通する点は覆土に炭化物が含入っている点があげられる。また、遺物や形状からは時期的な差が見られるがほぼ墓壙的な状況が考えられる。土坑全体からは、縄文土器・土師・須恵器等、総数215点出土した。（各土坑の計測値は一表に記載し報告する）

第２表　土坑一覧表

単位cm：（　）は推定値を示す

No.	遺構位置（グリッド）	形状・規模				備　　考
		長径	短径	深さ	形状	
D－1	F－7	162	135	60	楕円形	
D－2	E・F－5・6	192	140	67	楕円形	土師２点
D－3	F・G－5	178	152	70	楕円形	縄文１・土師３点
D－4	L・M－5・6	250	210	47	隅丸方形	縄文・土師・須恵130点
D－5	J・K－7	175	116	32	楕円形	縄文１点
D－6	K－8	200	132	44	楕円形	縄文３点
D－7	J－8	153	97	25	楕円形	縄文６点
D－8	P－6	141	95	30	楕円形	
D－9	P－5	182	105	32	楕円形	縄文２・土師２点
D－10	M－4・5	226	212	53	隅丸方形	縄文・土師・須恵31点
D－11	L－4・5	138	97	64	楕円形	縄文５・土師７点
D－12	Q・R－4	101	92	20	ほぼ円形	須恵３・土師２点
D－13	Q・R－4	87	72	19	楕円形	縄文８点
D－14	I・J－7	(142)	—	49	楕円形	H－３号と重複、縄文・土師・須恵９点

４．ピット〔第３図、図版４〕

調査区の北西側H－４グリッド、北東側G-10グリッド、南東側P－８グリッド付近に検出した。位置的には住居跡と近接している。全体に掘り込みの浅いものが多く形状は円・楕円形であった。また、規則性や配置の点から掘立柱建物跡を組める可能性についても考えたが、組める状況のものはなかった。時期については特定できる遺物はなく、覆土や形状などから推測して中近世頃と考えたい。遺物は、ピット全体で縄文土器・土師・須恵器など総数５点出土した。（各ピットの計測値は一表に記載し報告する）

第３表　ピット一覧表

単位cm：（　）は推定値を示す

No.	遺構位置（グリッド）	形状・規模				備　　考
		長径	短径	深さ	形状	
P－1	F－1	28	27	18	円形	土師片１点
P－2	F－1	33	28	20	楕円形	土師片２点
P－3	G－1	28	26	17	円形	
P－4	F－2	34	32	27	円形	
P－5	F－2	31	28	20	楕円形	
P－6	G－3	38	32	13	楕円形	
P－7	F－3	(38)	34	20	(楕円形)	P－８と重複
P－8	F－3	(34)	24	16	(楕円形)	P－７と重複
P－9	F・G－3	34	28	27	楕円形	
P-10	F－4	33	31	18	円形	P-11と重複
P-11	F－4・5	28	28	37	円形	P-10と重複
P-12	G－5	30	29	23	円形	
P-13	G－4	32	26	36	楕円形	
P-14	G－4	32	29	31	円形	
P-15	G－4	32	30	47	円形	
P-16	G－4	40	36	31	円形	
P-17	G－4	30	27	31	円形	
P-18	H－3	41	37	35	楕円形	
P-19	H－3	40	36	52	楕円形	
P-20	H－3	45	42	34	円形	
P-21	H－3・4	42	39	40	円形	
P-22	H－4	35	35	25	円形	
P-23	I－4	34	29	24	楕円形	
P-24	E－9	36	29	33	楕円形	
P-25	F－9・10	33	28	35	円形	
P-26	F－9・10	40	34	34	円形	
P-27	E・F-11	36	35	33	円形	
P-28	F-11	36	32	19	楕円形	
P-29	G-10	32	25	29	楕円形	縄文１・須恵１点
P-30	G－9	20	16	25	楕円形	
P-31	G－9	20	20	17	円形	
P-32	G－9	32	22	30	楕円形	
P-33	G－9・10	33	33	28	円形	
P-34	G-10	22	21	21	円形	
P-35	G-10	25	22	24	円形	
P-36	G-10	34	27	21	楕円形	
P-37	H-11	(44)	30	23	楕円形	P-38と重複
P-38	H-11	(46)	44	22	楕円形	P-37と重複
P-39	H-11	26	22	18	楕円形	
P-40	H-11	42	40	24	円形	
P-41	H－3・4	35	32	28	円形	
P-42	F－3・4	31	30	28	円形	
P-43	G－3	28	24	26	楕円形	
P-44	H－3	32	27	34	楕円形	
P-45	H－3	36	32	28	円形	
P-46	I－3	36	28	29	楕円形	
P-47	I－3	24	24	18	円形	
P-48	N－8	76	50	52	不整形	
P-49	N－8	60	52	58	ほぼ円形	
P-50	P－8	62	54	32	ほぼ円形	
P-51	P－8	73	49	43	楕円形	
P-52	P－7	41	33	38	楕円形	
P-53	P－7	42	37	40	楕円形	
P-54	P－7	60	44	24	楕円形	
P-55	O・P－6・7	42	42	34	不整形	
P-56	P－6	34	27	28	楕円形	
P-57	N－6	49	48	50	円形	

５．溝　　跡〔第３・９図、図版４〕

W－１号溝

位置 G-11～N－２グリッド、途中Ｊ－６・７グリッド内で一部途切れる。**（東側）規模** 上幅50～82cm、下幅36～65

cm、長さ22m、深さ６～23cm。**形状** 断面緩やかなＵ字形。**底の標高** Ｅ226.03m、W226.46m。底の高低差はW→Ｅ方向に傾斜する。**方向** Ｎ-60°-Ｅ（**西側**）**規模** 上幅48～100cm、下幅28～75cm、長さ20.9m、深さ10～32cm。**形状** 断面緩やかなＵ字形。**底の標高** Ｅ226.43m、W226.35m。底の高低差はＥ→W方向に傾斜する。**方向** Ｎ-50°-Ｅ **全長方向** Ｎ-50°～60°-Ｅの範囲にある。**重複** W-２がＬ-５グリッド内でW-１の南壁を掘り込んでいる。**備考** W-１は東西方向に位置し、中央付近はＪ-６・７グリッド内で途切れている。方向や規模、覆土などから同じ溝と思われる。また高低差は、中央から東・西側方向に低くなっている。**遺物** 流れ込みと思われる縄文土器片が総数50点出土している。**時期** 中近世と思われる。

W-２号溝

位置 Ｌ-５～Ｏ-６グリッド **方向** Ｎ-18°-W **形状** 断面緩やかなＵ字形。**規模** 上幅48～65cm、下幅34～51cm、深さ12～20cm。**底の標高** Ｎ226.39m、Ｓ226.17m。底の高低差はＮ→Ｓ方向に傾斜する。**備考** W-１と重複し南側でＨ-11号を掘り込んでいる。**遺物** 出土していない。**時期** 規模や覆土、重複状況から中近世頃と思われる。

Ⅵ まとめ

松井田工業団地Ⅱ遺跡は、碓氷川の右岸の段丘上に位置し、西に松井田工業団地遺跡のＥ調査区と北に人見北原遺跡に隣接した遺跡で、関連性が考えられ集落範囲に含まれる位置にある。調査では、住居跡16軒と周溝状遺構３基、土坑14基、ピット57基、溝２条など古墳時代、平安時代から中近世までの遺構と縄文土器・土師・須恵器等の遺物が総数で4,506点検出されており、隣接遺跡との関連性と広がりが見られる。

以下、当遺跡における住居形態と遺物について若干の所見を記してまとめとする。（住居跡は一部推定を含む。遺物は、床着と覆土出土を含めて推定時期を記した。Ｈ-２・８・10号住居は、形態が不明のため除いた。）

住居跡は16軒検出し、これらのうちで平面形態が一部推定を含めて計測が可能な住居跡13軒についてのべる。
住居跡は基本的に大型正方形、中型正方形、小型正方形、中型縦長の隅丸長方形、小型縦長の隅丸長方形、小型横長の隅丸長方形に分類した。

大型正方形

Ｈ-３号住居跡で、規模は一辺が7.36～7.76mで面積は53.05m²を測る。掘り込みは深く柱穴は規則的に配置され壁周溝も巡っている。長軸方向はＮ-９°-Wを示す。

カマドは、北壁側の中央やや東寄りに位置し、主軸方向がＮ-42°-Ｅで、北壁に対して北東方向に作られている。また、住居内にある右袖は粘土を含むにぶい黄褐色土で作られ、焚口は北壁に対して南西方向からであった。

遺物は、土師器・須恵器の坏で、体部が浅く体部と口縁部の境に綾を有し、口縁が外傾して短く立ち上がる器形など６世紀後半代のものが出土している。

中型正方形

Ｈ-11・13・16号住居跡で、掘り込みは深いものと浅いものがある。規模は一辺が3.6～4.1m前後で平均面積は12.86m²を測る。柱穴は小数検出されたが規則性はない。長軸方向はＮ-58°～78°-Ｅの範囲を示す。

カマドは、東壁・北壁に位置し、ローム土を掘り込んで作られている。重複やカクランを伴うため残りがよくなく、検出されないものもあった。主軸方向はＮ-17°-W～Ｎ-60°-Ｅの範囲をしめす。

遺物は、土師器長胴甕で口縁「く」の字状に外反し、胴部ヘラ削りや、小型甕で口縁短く「く」の字状で胴部は丸味を持つヘラ削りのものなど７世紀中葉～後半代と考えられるものが出土している。Ｈ-16号は実測出来る物はなかった。

小型正方形

H－5・7号住居跡で、掘り込みが浅いものとH-15号住居跡で深いものとがある。規模は一辺2.8～3.0m前後で、平均面積は8.14m²を測る。柱穴はH-15号を除き検出されていない。長軸方向はH－5・7号でN－2°～6°-Eの範囲を示し、H-15号でN-81°-Wを示す。

カマドは、東壁中央やや南寄りに位置し、主軸方向がN-74°～75°-Wの範囲を示し、ローム土を掘り込んでいる。H－5・7号では構築材に自然石を使用していた。また、H-15号はカマドが検出されなかった。

遺物は、土師器「コ」の字状口縁の甕や須恵器ロクロ成形、底部糸切りの坏片や高台付き埦、灰釉陶器埦、刀子など9世紀中葉～10世紀前半と考えられるものが出土している。H-15号は、土師器坏・甕など6世紀後半代のものが出土している。

中型縦長の隅丸長方形

H-14号住居跡で、掘り込みは比較的深い。規模は一辺が3.34～4.02mで面積は12.49m²を測る。柱穴は四隅に検出した。長軸方向はN-69°-Wを示す。

カマドは、東壁中央やや南寄りに位置し、ローム土を掘り込んでいる。主軸方向はN-63°-Wを示す。

遺物は、土師器甕で口縁が「コ」字状に近く頸部下に膨らみを持ち、胴部下半で尻すぼみする器形で9世紀中葉と考えられるものが出土している。

小型縦長の隅丸長方形

H－6号住居跡で、規模は一辺2.51～3.20mで面積は7.76m²を測り、掘り込みは比較的深い。長軸方向はN－3°-Eを示す。

カマドは、北壁の中央付近にH－5号と重複し残りはよくない。

遺物は、須恵器坏でやや器肉が厚く、体部は丸味を持ち、底部糸切り未調整のものなど、9世紀前半～中葉と考えられるものが出土している。

小型横長の隅丸長方形

H－1・4・9・12号住居跡で、規模は一辺2.5～3.5m前後で、面積は平均で8.37m²を測る。掘り込みは比較的浅い。柱穴はH－4・9・12号に1～5基の検出があったが規則性に欠けている。長軸方向はN-40°-W～N－9°-Eの範囲を示す。

カマドは、東壁中央やや東寄りに位置し、ローム土を掘り込んでいる。H－9・12号カマドには構築材に自然石を使用していた。主軸方向はN-87～98°-Eの範囲を示す。

遺物は、須恵器高台付埦で小さめな底部から体部直線的に口縁に至るものや、灰釉陶器高台付皿で器肉が薄く器高の低い、高台断面三角形など、10世紀代と考えられるものが多く出土している。

H－3号を除き、各中・小型では規模にあまり差が見られない。また、カマドの方向については、大・中型の正方形や中・小型の縦長隅丸長方形では北向きや東向きがあるのに対して、小型の正方形や横長の隅丸長方形は、東向きのものがほとんどであった。柱穴は大型正方形のH－3号では規則性が見られたが、他の住居では検出されないものもあり規則性は見られない。

本遺跡の住居跡は、大型から小型へと変わって行く状況に合わせて、掘り込みもだんだん浅くなる傾向がある。カマドの方向は北から東向きへと変わり、位置は中央から右側へと少しずつ移動していることがわかる。また、重複住居も検出された。その状況を見ると、9世紀代と10世紀代の住居跡が多く、住居も小型になり、ほぼ同じ規模の作り

替えが見られる。また、6世紀～7世紀代と10世紀代では規模の違いや掘り込みの深さなどに差があることがわかる。周辺集落との関係では、本遺跡の西側にある松井田工業団地遺跡と北側の人見北原遺跡の検出住居跡が、古墳時代、奈良・平安時代であることから、本遺跡も6世紀後半～10世紀代に位置すると考えられることで、一連の大集落であったことが窺える。

生産域については、松井田工業団地遺跡A区で平安時代のAs-B水田が検出されており、本遺跡の東に位置する安中市域の田中田・久保田遺跡でも同時代の水田跡が、広範囲にわたって存在していることが確認されている。松井田工業団地遺跡付近を東流する柳瀬川沿いの低湿地において、水田耕作が営まれていたことが考えられる。

本遺跡を含めた隣接遺跡は、同じ台地上に存在し立地状況も同じであることで、各時代ごとに集落が形成され10世紀代まで続いていたことが窺える。

縄文土器包含層について

本遺跡では、縄文時代の遺構とされるものは検出されていないが土師器使用住居跡の確認面で縄文土器の散布が見られ、全体で2,133点が出土した。とくに調査区のI-3、JK-2、K-7・8、L-8、Q-4グリッド付近に集中し、その範囲はサブトレンチにより基本土層の第III層で厚さは確認面から13～29cmまでの間の断面に出土状況が見られる。

遺物は、破片での出土がほとんどで、同一個体片で接合できたものは少数あった。その中で土器を観察した結果その所属時期を前期、中期、後期に大きく分けることが出来た。

前期では、諸磯式土器片が10点出土している。中期では、加曾利E式土器片がほとんどで2,102点と多く出土している。後期では、称名寺・堀之内式土器片などが21点出土している。

個別の器形では深鉢片が多く出土している。また、曾利式土器の影響を受けていると思われる深鉢でI 3グ-1なども見られた。さらに、出土した土器の底部を集めて底径(推定底径を含む)を調べた結果、4～10.8cmまでのものがあり、その中で底径が5.5～10cmまでのものがI 3グリッド内に多く出土している。

付近では安中市域の西裏・西新井遺跡で縄文中期後半の住居跡が1軒検出されている。また、青森県三内丸山遺跡に見る遺物包含層では長期間にわたって、集落が営まれ続けたその時間の圧倒的長さを具体的に示したものに、中期から始まった盛り土遺構がある。谷と斜面に形成され、竪穴住居や掘立柱建物などの構築の際に出る残土や排土、土器、石器、生活廃棄物などを特定の場所に連続して廃棄した結果、積み上げられたものに廃棄ブロックとなって見られる例がある。[註1)]

本遺跡に見られる土器散布状況は、基本土層のIII層までであることや、縄文時代の遺構が検出されないことなどから推測して、付近には縄文時代の集落がある可能性も考えられ、自然災害等により土器が運ばれたことも考えられる。

参考文献

『松井田町誌』 1985年　松井田町誌編さん委員会
『松井田工業団地遺跡』 1990年　群馬県企業局　松井田町教育委員会
『人見北原遺跡』 1990年　群馬県松井田町教育委員会
『仁田遺跡・暮井遺跡』 1990年　群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
『新寺地区遺跡群 西裏・西新井遺跡　諏訪辺遺跡』 1991年　群馬県安中市教育委員会
『中川原遺跡群　上ノ山遺跡』 1992年　群馬県勢多郡大胡町教育委員会
『よみがえる縄文の都　三内丸山遺跡の衝撃』 1995年　山崎　謙

註1）盛り土にみる三内丸山人の執念

第４表　出土遺物観察表（古墳時代以降）

法量は①口径②底径③高台径④胴部最大径⑤器高⑥長さ⑦幅⑧穿孔径⑨重さをｇで表す。

出土位置-No.	台帳番号	器形	法　量	①胎土②焼成③色④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考	実測図	図版
H-1-1	H-1カ№10・一括	須恵 羽釜	①[22.0] ⑤(9.0)	①中粒(石英粒含む)②良好(還元)③10YR6/1褐灰④口～鍔下	鍔は断面三角形で水平に突出。口縁・胴部内外面横撫で。面の調整は粗雑。ロクロ成形。	床着 輪積痕あり	10	5
H-1-2	H-1一括・カ一括	土師 甕	①[19.0] ⑤(9.5)	①中粒②良好(酸化) ③2.5YR6/6橙 ④口～胴部片	口縁はゆるい「コ」の字状を呈し、肩部は張りがない。口縁内外面横撫で。胴部外面ヘラ削り。内面ヘラ撫で。	覆土 輪積痕あり	10	5
H-1-3	H-1一括	土錘	⑥4.4⑦1.4 ⑧0.4⑨8.20	①細粒②良好(酸化)③5YR5/4にぶい赤褐④ほぼ完形	中央の膨らむ管状土錘。	覆土	10	5
H-3-1	H-3 №5	土師 高坏	①[11.6] ②7.0 ⑤7.3	①細粒(石英粒含む) ②良好(酸化) ③5YR6/6橙 ④3/5	坏部は大きく開き浅形。脚部は短く裾まわりは小さく水平状に開く。坏部外面口縁横撫で、ヘラ削り。脚部ヘラ削り、指押え痕が残る、内面横撫で、指押え痕。裾部横撫で。	覆土	10	5
H-3-2	H-3 №2・3・一括	須恵 坏	①11.0 ⑤3.5	①細粒②良好(還元) ③7.5Y7/1灰白④4/5	体・底部は丸味をもち口縁部との境に稜あり、口縁部は内傾。ロクロ成形。底部ヘラ調整。	覆土	10	5
H-3-3	H-3 №19	須恵 坏	①[13.2] ⑤4.0	①細粒②良好(還元) ③にぶい黄橙 ④3/5	体・口縁部との境に稜があり，口縁は外傾する。口辺部上方に成形時の段差あるロクロ成形。底部外面ヘラ削り痕。	床着 外面煤付着	10	5
H-3-4	H-3一括	土師 坏	①[12.8] ⑤4.6	①中粒②良好(酸化) ③10YR8/4浅黄橙④1/2	体部は底部から丸味をもち内湾気味に口縁に至る。厚手で調整雑な浅形坏。外面口縁横撫で。体・底部ヘラ削り、撫で。内面撫で。	覆土 外面煤付着	10	5
H-3-5	H-3一括	土師 坏	①13.0 ⑤5.6	①中粒(白色粒あり)②良好(酸化)③10YR7/4にぶい黄橙 ④1/3	体・底部との境に稜をもち、口縁直立的。口縁内外面横撫で。体・底部外面ヘラ削り、内面ヘラ撫で。底部丸底。	覆土 外面煤付着	10	5
H-3-6	H-3一括	土師 坏	①[12.4] ⑤4.2	①細粒 ②良好(酸化) ③10YR8/3浅黄橙 ④1/3	体・底部との境に稜をもち、口縁は外傾して立ち上がり中央に成形時の段差が見られる。口縁内外面横撫で。体・底部外面ヘラ削り、撫で。内面撫で。丸底、やや浅形。	覆土 内外面煤付着	10	5
H-3-7	H-3一括	須恵 高台付皿	①[14.8] ③7.0⑤3.0	①中粒(石英粒含む)②良好(還元)③ N5/0灰④3/5	底部から口縁に向い水平気味に開き口唇部で外反する。ロクロ成形。底部回転糸切後付高台。	覆土	10	5
H-4-1	H-4 №1・2・一括	須恵 高台付埦	①[14.0] ③7.0⑤4.5	①細粒②良好(還元) ③10YR8/2灰白④4/5	体部は直線的に外傾し口縁は短く外反する。ロクロ成形。底部右回転糸切後、付高台。	ほぼ床着 外面墨書	10	5
H-4-2	H-4 №11	須恵 高台付埦	①17.2 ③7.5 ⑤6.9	①中粒 ②良好(還元)③灰白 ④ほぼ完形９/10	体部は直線的に外傾し口縁に至る。ロクロ成形。底部回転糸切後付高台の大型埦。	床着。内外面一部に煤付着 内面「大」墨書	10	5
H-4-3	H-4カ №2	須恵 高台付埦	③[6.5] ⑤(3.6)	①中粒②良好(還元) ③5Y8/1灰白④底部～体部一部残	体部は丸味をもつ。ロクロ成形。高台は貼付明瞭。	ほぼ床着	10	5
H-5-1	H-5 №1	刀子	⑥(10.7) ⑨17.47	④刀身部1/2残	刀身部？断面逆三角形。	ほぼ床着	10	5
H-5-2	H-5一括	須恵 坏	①[14.0] ②(7.0)⑤3.4	①細粒②良好(還元) ③10YR7/1灰白④口縁～底部片	体部やや内湾気味に外傾し、口縁部でゆるく外反する。ロクロ成形。底部回転糸切。	覆土 底部煤付着	10	5
H-6-1	H-6北カ №1	須恵 坏	①12.7②6.6 ⑤3.5	①細粒(礫混入)②良好(還元) ③2.5Y6/1黄灰④4/5	体部はやや丸味をもち、口縁で短く外反。ロクロ成形。平底。右回転糸切り未調整。	ほぼ床着 内外面煤付着	10	5
H-7-1	H-7 №1	須恵 高台付埦	①[13.9] ③6.0 ⑤5.4	①細粒②良好(還元) ③7.5Y7/1灰白 ④3/5	体部はやや丸味をもち外傾し口縁に至る。口縁部やや外反する。ロクロ成形。底部回転糸切後付高台。やや小さい。	覆土	10	5
H-7-2	H-7カ №3	須恵 高台付埦	①12.5 ③6.4 ⑤5.4	①中粒(砂礫混入)②良好(還元) ③5Y6/1灰④完形	体部は丸味をもち外傾し口縁で短く外反する。器はやや厚手で粗雑。底部やや高い付高台。ロクロ成形。	ほぼ床着 体部内外面「千」刻書あり	10	5
H-7-3	H-7 №3・一括	灰釉陶器 高台付埦	③7.4 ⑤(3.5)	①細粒②良好(還元) ③10Y7/1灰白 ④1/2	体部はやや丸味をもって大きく開き口縁に向かう。口縁部欠損。ロクロ成形。内外面に施釉痕残る。器厚は薄手。底部ヘラ調整、付高台。	覆土	10	5
H-7-4	H-7カ №2	土師 甕	①19.8 ④22.0 ⑤(17.5)	①中粒 ②良好(酸化) ③にぶい赤褐④2/5	口縁は「コ」の字形で肩部から膨らみ胴上半で最大径をもつ。口縁内外面横撫で。頸部外面に指押え痕。胴部外面ヘラ削り整形。器厚は薄手。	覆土	10	5
H-8-1	H-8 №1～3・一括	須恵 大甕	①[35.2] ④[69.0] ⑤(8.8)口～頸 (39.0)胴～底	①細粒 ②良好(還元) ③ N7/0灰白 ④口～頸部・胴～底部	口縁は外反し下部に隆線が周り、その下の頸部は沈線により２段区画、区画内に５～６条の波状文をつける。胴上部にも波状文を配す。外面格子状叩き、内面 弧状のあて目。	覆土	10	5
H-9-1	H-9 №8	灰釉陶器 高台付皿	①13.5 ③6.7⑤3.1	①細粒②良好(還元)③2.5Y7/1灰白④ほぼ完形	底部から大きく開き、口縁部はやや丸味をもち外反する。ロクロ成形。内外面に施釉。	覆土	11	5
H-11-1	H-11カ №1	土師 小型甕	①14.8 ④15.3 ⑤(14.3)	①粗粒(石英・白色粒) ②良好(酸化) ③2.5YR6/1橙 ④4/5	口縁部は短く直立気味に外反、「く」の字状。胴部は丸味をもって底部に至る。底部欠損。口縁部内外面横撫で。胴部外面斜めヘラ削り、撫で。内面ヘラあて痕、撫で。器面荒れている。	床着 内外面煤付着	11	5
H-11-2	H-11 カ №2・3	土師 長胴甕？	①22.1 ⑤(10.3)	①粗粒②良好(酸化) ③5YR5/6明赤褐 ④1/4	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部内外面横撫で。胴部内面横撫で、ヘラあて痕あり。外面ヘラ削り。石英粗粒のため荒れている。	床着 口縁・胴部煤付着	11	5
H-12-1	H-12 №2 カ一括	須恵 高台付埦	①[16.2] ③7.5⑤7.2	①細粒②良好(還元) ③10YR8/2灰白④3/5	体部は直線的に外傾して口縁に至り、口縁部やや外反気味。ロクロ成形。底部糸切り後付高台	覆土	11	5
H-13-1	H-13カ №2	土師 甕	①(21.0) ⑤(8.0)	①粗粒(石英・白色粒)②良好(酸化)③5YR5/6明赤褐④口縁片	口縁「く」の字状に外反、内外面横撫で。外面縦ヘラ削り、内面撫で。器面荒れている。	覆土	11	5

法量は①口径②底径③高台径④胴部最大径⑤器高⑥長さ⑦幅⑧穿孔径⑨重さをgで表す。

出土位置-No.	台帳番号	器形	法　量	①胎土②焼成③色④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　考	実測図	図版
H-14-1	H-14 No.6 一括	土師甕	①20.8 ④26.1 ⑤(25.1)	①中粒(石英粒含) ②良好(酸化) ③2.5YR5/6明赤褐 ④1/3	口縁はやや「コ」の字形を呈し、口唇は厚目で外反気味。頸部下は膨らみをもち胴部下半から尻すぼみ状。底部欠損。口縁部内外面横撫で。胴部外面ヘラ削り整形、内面にハケ目整形痕。	覆土 胴下半煤付着	11	5
H-15-1	H-15 No.1	土師小型壺	①10.8 ⑤8.9	①中粒 ②良好(酸化) ③5YR7/8橙 ④完形	口縁から頸部は内傾し体から底部は半球形の丸底形。頸部中央やや上部に整形段差あり。頸部下に稜をもつ。外面口縁部横撫で。体部から底部外面ヘラ削り、内面撫で。	ほぼ床着 底部煤付着	11	5
H-15-2	H-15 No.3・4・一括	土師坏	①14.0 ⑤4.5	①細粒②良好(酸化) ③7.5YR7/4にぶい橙 ④3/4	体・底部との境に稜をもつ。外面口縁横撫で。口縁部に成形時の段差が見られる。底部丸底、ヘラ削り。内面荒れている。	ほぼ床着 外面煤付着	11	5
H-15-3	H-15 No.6	土師小型甕	①[12.8] ②6.2 ⑤12.7	①中粒 ②良好(酸化) ③10YR6/3にぶい黄橙 ④3/5	口縁は浅い「コ」の字形を呈し口唇は外反する。頸部下で最大径をもち底部に向い尻すぼみとなる。底部平底気味。口縁内外面横撫で。胴部縦方向のヘラ削り、内面ヘラ撫で。器面剝がれ痕	ほぼ床着 外面煤付着	11	5
D-3-1	D 3 一括	ミニチュア	①[7.0] ②5.0 ⑤4.5	①細粒②良好(酸化) ③10YR8/4浅黄橙④2/3	体部は内湾気味に口縁に至る。内面にヘラ押さえ痕。内外面ヘラ撫で調整。平底撫で。	覆土 手捏	11	6
D-4-1	D 4 No.1	土師甕	①21.7 ④25.8 ⑤31.1	①中粒(石英・砂粒混) ②良好(酸化) ③7.5YR6/4にぶい橙 ④完形	口縁はゆるやかに外反し肩部の張り小さく胴部上半部に最大径をもち底部に向かいゆるやかに膨らむ丸底甕。口縁内外面横撫で。胴部外面縦、斜め方向ヘラ削り、内面横撫で。器外面ヘラ撫で時の砂礫粒のずれ痕が多数ある。	ほぼ床着 胴部煤付着	11	6
D-4-2	D 4 No.2	土師長胴甕	①21.4 ⑤(29.7)	①粗粒(石英粗粒混) ②不良(酸化) ③2.5YR5/4にぶい赤褐④2/3	口縁部「く」の字状。内外面横撫で。胴部外面縦方向ヘラ削り、内面横撫で。器外面石英粗粒が出て器面は荒れている。底部欠損。	ほぼ床着 胴部外面煤付着	11	6
D-10-1	D10 No.2・3	土師坏	①[12.0] ⑤4.8	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/6橙 ④口～底部1/3以上残	口縁部はやや外反するが直立気味。口縁部内外横撫で。底部外面ヘラ削り調整。器内面剝がれ落ち荒れる。丸底。	ほぼ床着 底部煤付着	11	6
M9グ-1	M 9 グ	須恵蓋	①13.2⑤3.7 摘み径2.0 かえり径10.2	①細粒②良好(還元)③外面：自然釉(砂粒焼付)10YR5/1褐灰 内面:5YR6/1褐灰④完形	天井部はゆるやかに丸味をもって口縁に向いかえりは口縁の内側に入って付く。つまみは宝珠状を呈す。器面に砂粒が焼き付き自然釉かかる	住居確認面	11	6
M9グ-2	M 9 グ	ミニチュア	①6.1②4.7 ⑤3.7	①細粒②良好(酸化) ③10YR7/3にぶい黄橙④完形	体部直線状にやや外傾し口縁に至る。内面指撫で、指押さえ。外面撫で。底部ヘラ削り。平底	住居確認面 手捏	11	6
M9グ-3	M 9 グ	ミニチュア	①6.0②3.7 ⑤3.5	①細粒②良好(酸化) ③10YR7/3にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部は丸味をもち口縁に至る。内面指撫で調整痕。外面撫で。平底。	住居確認面 内外面煤付着・手捏	11	6
M9グ-4	M 9 グ	ミニチュア	①5.7②4.0 ⑤3.4	①細粒②良好(酸化) ③5YR6/6橙④4/5	体部は直線的に外傾し口縁に至る。厚手で内外面撫で。底部外面撫で、内面指撫で。平底。	住居確認面 外面煤付着 手捏	11	6
M9グ-5	M 9 グ	ミニチュア	①[8.0] ②4.3 ⑤4.6	①細粒(白色粒)②良好(酸化) ③10YR7/3にぶい黄橙 ④4/5	体部は丸味をもって立ち上り口縁に至る。内面ヘラ調整痕。外面指撫で調整、指押え、荒れて凸凹。粗雑。平底。	住居確認面 手捏	11	6
M9グ-6	M 9 グ	ミニチュア	②4.1 ⑤(5.4)	①細粒②良好(酸化) ③10YR7/3にぶい黄橙 ④2/3	体部直線的に外傾し上半で丸味をもち口縁に至る。内外面指撫で。底部ヘラ削り、撫で。平底。	住居確認面 底部煤付着 手捏	11	6
MKII-2	全体一括	土錘	⑥(5.0)⑦1.4 ⑧0.3⑨8.67	①微砂②良好(酸化) ③2.5YR5/6明赤褐④ほぼ完形	中央の膨らむ管状土錘。	住居確認面	11	6

注）出土遺物観察表の記載は以下の基準で行った。
①胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0～1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とした。
②焼成は、極良、良好、不良の3段階。
③法量の単位はcm、(　)は現存値、[　] 復元値で、記載した.
④遺構の略称は、住居跡―H、カマド―カ、土坑―D、グリッド―グで表した。
観察表の出土位置-Noは各遺構ごとの番号で報告書の付番、台帳番号は調査時の付番を表す。

第5表　石器観察表

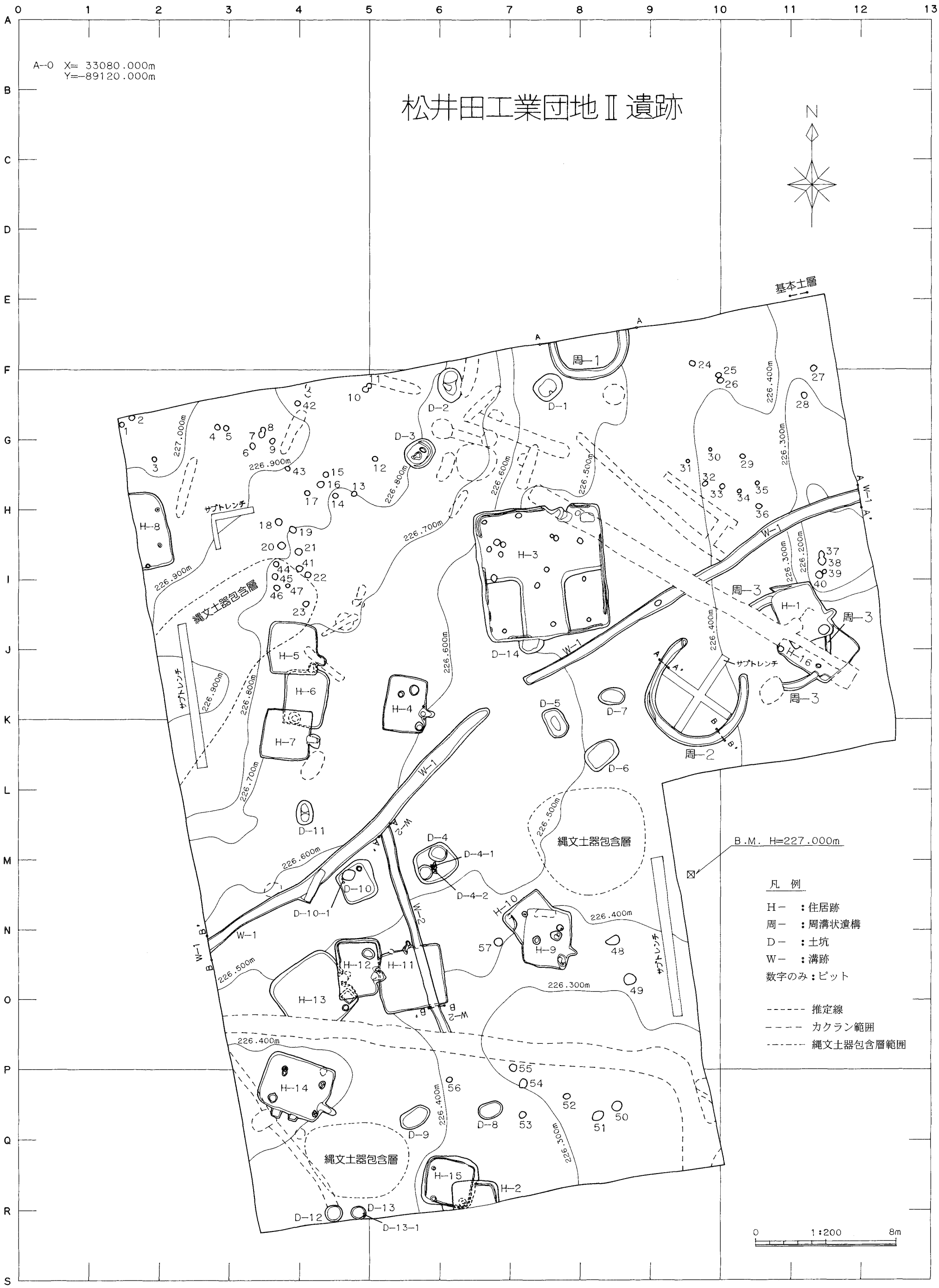
出土位置	台帳番号	器　種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　　考	実測図	図版
I 3グ-17	I 3グNo.2	打製石斧	(9.2)	5.2	1.9	(88.09)	頁　岩	短冊形石斧	12	6
I 3グ-18	I 3グ一括	打製石斧	11.1	5.0	2.4	77.33	頁　岩	短冊形石斧	12	6
I 3グ-19	I 3グ一括	打製石斧	9.4	4.3	1.5	182.00	黒色頁岩	短冊形石斧	12	6
J 2グ-2	J 2グ一括	凹　石	21.6	18.9	6.95	3432.00	安山岩	扁平丸形・両面使用	12	6
N 3グ-1	N 3グ一括	石　皿	(25.5)	(21.0)	(4.9)	(3325.00)	緑泥片岩	1/2残	12	6
Q 4グ-2	Q 4グNo.5	石棒？	42.4	11.6	3.6	2420.00	緑泥片岩	板状石	12	6
Q 4グ-3	Q 4グ一括	打製石斧	9.1	4.5	1.4	71.60	頁　岩	短冊形石斧	12	6

注）石器観察表の出土位置はグリッド位置で、報告書の付番を表し、台帳番号は調査時の付番を表す。(　)は現存値を表す。

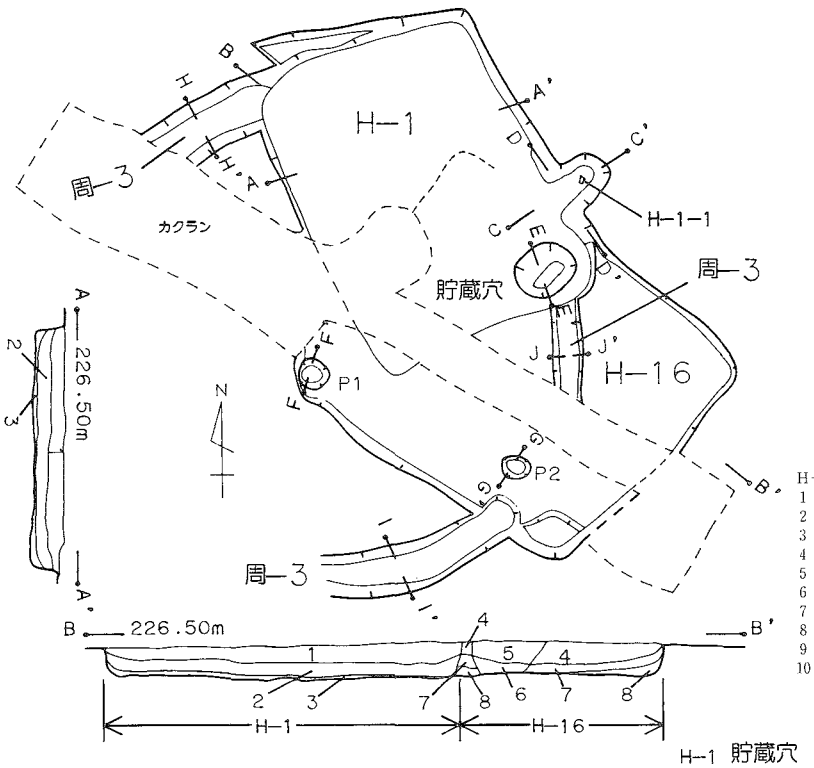
第６表　縄文土器観察表

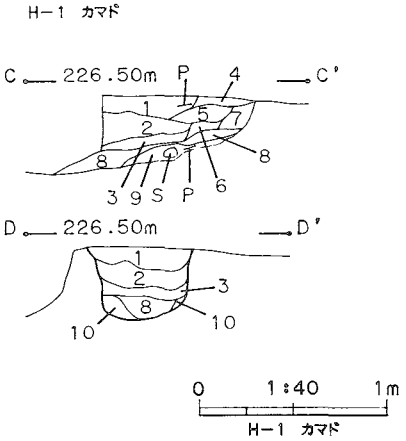
出土位置No.	台帳番号	器形	①胎土②焼成③色④残存 ⑤器高×口径×底径⑥厚さ	器形の特徴・文様構成・要素	備　考	実測図	図版
D-13-1	D-13No.1.2 Ⅰ3グ2Q4グ	深鉢	①中粒②良好③5YR7/6橙④胴下半部～底部⑤(22.0)×－×7.2cm	胴下半部に沈線２本を垂下させ磨消帯で区画。地文は縄文 RL。底部内面に煤付着。	加曾利Ｅ	12	6
Ⅰ３グ-1	Ⅰ３グ２	深鉢	①中粒 ②良好(酸化) ③5YR5/4にぶい橙 ④９/10 ⑤(31.7)×26.0×－cm	口縁はラッパ状に開き４単位の突起をもつ。頸部はゆるやかに括れ、胴中央部で膨らみもって底部に向い尻すぼみ状となる。底部は平底と推定。口縁の突起部に正「の」の字２単位、逆「の」の字２単位の渦巻文を配し楕円区画し、区画内に縦の沈線を充填。胴部は楕円区画文から２条の沈線を７単位懸垂させ区画し、区画内を矢羽状の沈線文で充填する。	曾利系？	12	6
Ⅰ３グ-2	Ⅰ３グ２	大型 深鉢	①中粒(白色砂粒混) ②良好 ③10YR8/4浅黄橙 ④２/５⑤(32.5)×46.5×－cm	口縁部は内湾するキャリパー形。口縁部は隆帯による渦巻文で区画し、区画内を縄文 LR を充填する。胴部は口縁部の隆帯から２本の沈線を懸垂させ磨消帯を区分するが、１本の沈線は区画内の縄文充填帯の中を波状に垂下させる。	加曾利Ｅ３	12	6
Ⅰ３グ-3	Ⅰ３グ２	小型 深鉢	①中粒②良好③7.5YR7/4にぶい橙 ④胴部～底の1/4⑤(14.4)×－×5.6cm	胴部の磨消帯に２本の沈線を懸垂させ区画する。縄文(RL)帯には波状沈線を胴下部まで施文。	加曾利Ｅ	12	6
Ⅰ３グ-4	Ⅰ３グ２	大型 深鉢	①中粒(白色砂粒混)②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④４/５⑤61.0×[45.0]×10.8cm	キャリパー形。口縁はやや波状を呈す。口縁部は隆帯横位Ｓ字文。胴部はＵ字・逆Ｕ字の沈線、波状沈線、沈線垂下文を配す。縄文 RL を充填。	加曾利Ｅ	12	6
Ⅰ３グ-5	Ⅰ３グ２	大型 深鉢	①中粒(砂粒混入多)②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④１/３⑤39.7×48.4×－cm	キャリパー形。口縁部は隆帯による楕円区画文と渦巻文を配す。縄文磨消帯に微隆帯状２本を懸垂させる。朱着色あり。煤付着。(推定口径を出して復元し実測した)	加曾利Ｅ３	12	6
Ⅰ３グ-6	Ⅰ３グ	大型 深鉢	①中粒②良好 ③5YR6/4にぶい橙 ④２/５⑤(21.5)×40.0×－cm	口縁部は内湾するキャリパー形。口縁部は隆帯による渦巻文を横位に連結させる。胴部は２本の沈線を垂下させ磨消帯を作り区画する。地文は RL。	加曾利Ｅ３	12	6
Ⅰ３グ-7	Ⅰ３グ２	深鉢	①中粒(石英粒) ②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④破片⑥1.5cm	口縁部はゆるく内湾するキャリパー形。口縁部は隆帯による楕円区画を連結させ区画内は縦位沈線充填。胴部は櫛状工具で縦位に条線文を施文、縦位磨消帯を配し沈線で区画する。さらに条線施文の上に沈線文を施す。	加曾利Ｅ４	－	6
Ⅰ３グ-8	Ⅰ３グ２	深鉢	①中粒(石英混入)②良好③外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：5YR5/6明赤褐④破片⑥1.2～1.5cm	口縁部が内湾したキャリパー状。口縁部に隆帯による弧状区画文を配し区画内に条線を充填。胴部は沈線を２本対で垂下させ縦区分し区分外を櫛状工具による縦位条線文を施文する。	加曾利Ｅ４ 煤付着	－	6
Ⅰ３グ-9	Ⅰ３グ２	深鉢	①中粒(白色砂粒混)②良好 ③10YR7/4にぶい黄橙 ④破片⑥1.2cm	キャリーパー形深鉢。口縁部は隆帯により渦巻文を配し、下部に太い沈線で楕円区画、縄文 RL 充填。胴部は沈線逆Ｕ字で磨消帯を区画し、地文の縄文帯内は波状沈線文を施文する。	加曾利Ｅ３ 全面煤付着	－	6
Ⅰ３グ-10	Ⅰ３グ	器台	①中粒②良好③7.5YR7/4にぶい橙 ④破片⑥1.2cm	無文の脚部片。円形孔あり。	加曾利Ｅ３	－	6
Ⅰ３グ-11	Ⅰ３グ	深鉢	①中粒②良好 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④破片 ⑥0.8～0.9cm	口縁部は内湾し頸部下にややくびれをもつキャリパー形。口縁部に渦巻文の小突起を配す。頸部は円形・楕円形区画を隆帯で連続させ区画内に渦状条線を充填する。胴部は沈線を垂下させ区画し区画内に条線を円形・波状文を施文。	加曾利Ｅ３	－	6
Ⅰ３グ-12	Ⅰ３グ	深鉢	①中粒(白色砂粒)②良好③10YR7/3にぶい黄橙④破片⑥0.7～0.8cm	口縁部は口縁に沿って沈線を巡らせ、頸部から胴部は櫛状工具による縦位波状文を垂下させる。煤付着。	加曾利Ｅ３	－	6
Ⅰ３グ-13	Ⅰ３グ	深鉢	①中粒②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④破片⑥0.8cm	口縁部はゆるやかに内湾し頸部にわずか括れをもち胴部上位直立状。口縁部直下から器面全体に主として櫛状工具による縦位の条線文を施文。	加曾利Ｅ３ 古式？	－	6
Ⅰ３グ-14	Ⅰ３グ２	深鉢	①中粒②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④破片⑥1.2cm	口縁部に隆帯の渦巻文。頸部は隆帯により楕円区画文を配し区画内に縦位沈線を充填。胴部は２本１対の沈線を懸垂させ区分する。２本１対の懸垂文間には矢羽状(Ｖ字)沈線を充填。	曾利系？ 煤付着	－	6
Ⅰ３グ-15	Ⅰ３グ	深鉢	①中粒②良好③10YR7/2にぶい黄橙 ④破片⑥1.2cm	口縁部は無文。頸部に隆帯による弧状区画文があると推定される。胴部に沈線による葉脈状文様を施す。内外面煤付着。	加曾利 Ｅ３かＥ４	－	6
Ⅰ３グ-16	Ⅰ３グ	深鉢	①中粒(白色砂粒)②良好 ③10YR8/4浅黄橙 ④破片⑥1.0cm	口縁部は隆帯による渦巻文と楕円区画文を配す。楕円区画内は縄文 RL を充填。胴部は櫛状工具による波状文を施文し、さらに沈線により波状文・直線文を垂下させる。煤付着。	加曾利Ｅ３	－	6
Ⅰ３・４グ-1	Ⅰ３・４グ Ⅰ３グ２	深鉢	①中粒(白色砂粒混)②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④破片⑥1.0～1.1cm	キャリーパー形深鉢。口縁部は隆帯による渦巻文と楕円区画文を配す。胴部は沈線のアーチ状文で磨消帯を区画する。アーチ状区画内には沈線の波状文を垂下させる。縄文 RL。	加曾利Ｅ３	－	6
Ｊ２グ-1	Ｊ２グ	深鉢	①中粒②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④破片⑥0.6cm	口縁大きく開き肩に張りをもち口縁に縦位の隆線を配し列点を施す。頸・胴部境に横位の沈線を４条入れ２本の平行隆線を描き、上段隆線上に列点を刻む。胴部は渦巻状沈線を配す。	堀之内Ⅰ式	－	6
Ｊ３グ-1	Ｊ３グ	深鉢	①中粒②良好③10YR6/3にぶい黄橙 ④破片⑥0.7cm	頸部・胴部とも器面に沈線による円弧文・曲線文を配す。	称名寺式	－	6
Ｋ８グ-1	Ｋ８グNo.3	深鉢	①中粒②良好 ③10YR7/3にぶい黄橙 ④３/５ ⑤30.6×［24.0］×7.2cm	口縁部内湾。胴上半ゆるく括れ、胴下部に向い下半でやや膨らみ底部に至る。底部径は小さい。口縁部は隆帯の楕円区画文を配し、区内に縄文 RL を充填。胴部は２本対の沈線文を懸垂させ区分。懸垂文間、縄文磨消し。口縁・胴下部煤付着。	加曾利Ｅ３	12	6
Ｋ８グ-2	Ｋ８グ	小型 深鉢	①中粒②良好③7.5YR7/4にぶい橙④胴～底部１/２弱⑤(11.7)×－×7.0cm	沈線２本を懸垂させ胴部を縦区画、区画内に矢羽状の沈線文を充填。	曾利系？	12	6
Ｌ３グ-1	Ｌ３グ	深鉢	①中粒②良好③10YR6/3にぶい黄橙 ④破片⑥0.9～1.0cm	口縁部は内湾する。口縁部は隆帯による渦巻文を配し楕円部に縦位条線を充填。頸部下は櫛状区具による縦位条線文施文。	加曾利Ｅ３	－	6
Ｑ４グ-1	Ｑ４グ	深鉢	①中粒(白色砂粒混)②良好③10YR7/3にぶい黄橙④破片⑥1.4～1.5cm	キャリパー形深鉢。胴部に隆線２本で円形磨消帯を配す。地文は縄文 RL。	加曾利 Ｅ４？	－	6
MK Ⅱ-1	全体一括	深鉢	①中粒②良好③10YR7/3にぶい黄橙 ④破片⑥1.0cm	櫛状工具による条線文で円・弧・縦・斜めと規則性なく施文。	加曾利 Ｅ３かＥ４	－	6

注）出土土器観察表の記載は以下の基準で行った。
①胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0～1.9mm)、粗粒(2.0mm以上)とした。
②焼成は、極良、良好、不良の３段階。
③(　)は現存値、[　]は復元値を表す。
縄文土器観察表の出土位置-Noは各遺構、グリッドごとの番号で報告書の付番、台帳番号は調査時の付番を表す。



第3図 松井田工業団地Ⅱ遺跡平面図

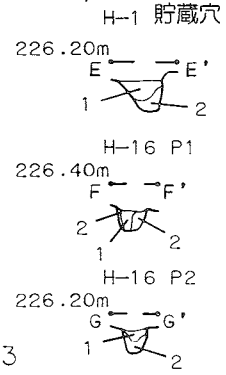




H-1号住居跡　カマド　土層注記（C-C′、D-D′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　焼土・炭化物・軽石粒含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　1層より焼土・軽石粒を多く含む
3　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土・灰・ローム粒を含む
4　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土を10%含む
5　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土を5%と炭化物を含む
6　明赤褐色　焼土ブロック
7　暗褐色土　焼土ブロックを多く含む
8　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物含む
9　明黄褐色土　ロームブロック
10　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土とローム粒含む

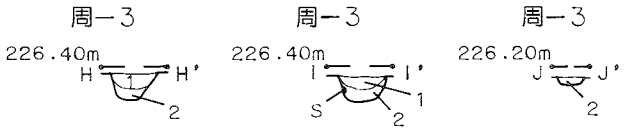
H-1・16号住居跡　土層注記（A-A′、B-B′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を5%とローム粒含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　1層よりローム粒とブロックを多く含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ロームブロックと炭化物を所々含む

H-16号住居跡
4　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～3㎜を3%含む
5　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石、ローム粒を僅かに含む
6　暗褐色土　粘性・締まりあり　5層よりもローム粒を多く含む
7　にぶい黄褐色土　軽石φ2～3㎜を5%とローム粒を多く含む
8　にぶい黄褐色土　7層よりもローム粒を多く含む

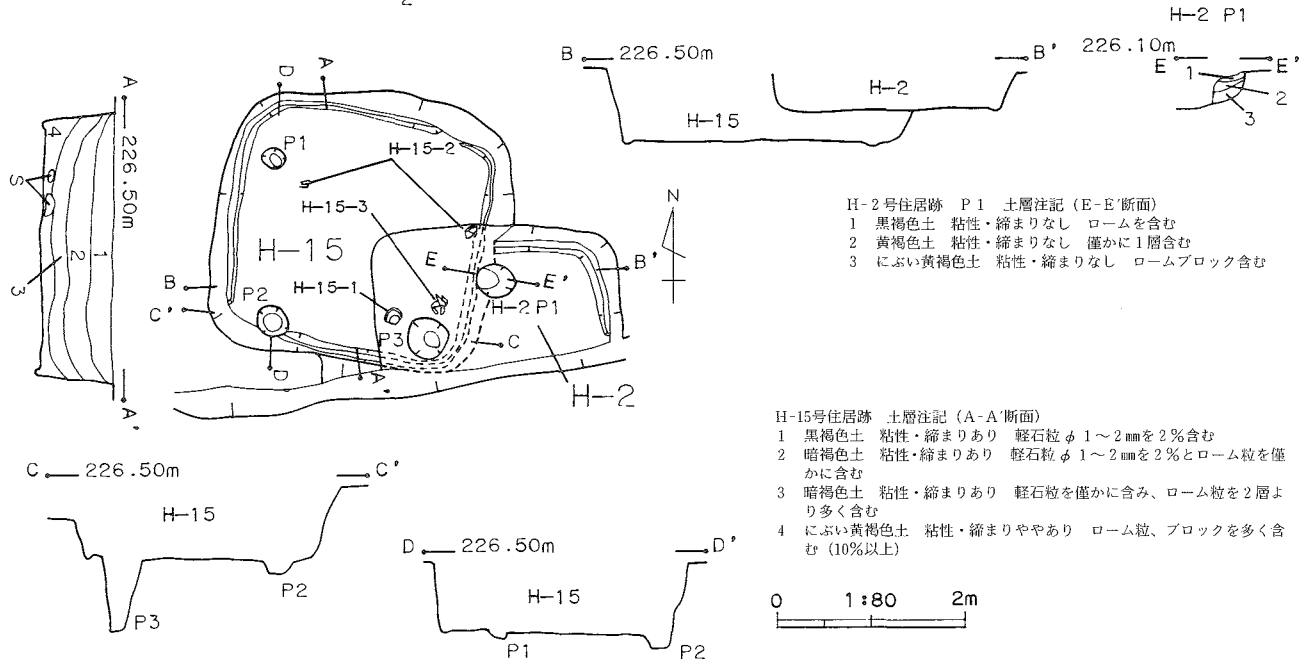


H-1号住居跡　貯蔵穴　土層注記（E-E′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土・ローム粒含む

H-16号住居跡　P1・2　土層注記（F-F′-G-G′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石・ローム粒含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　1層よりロームを多く含む



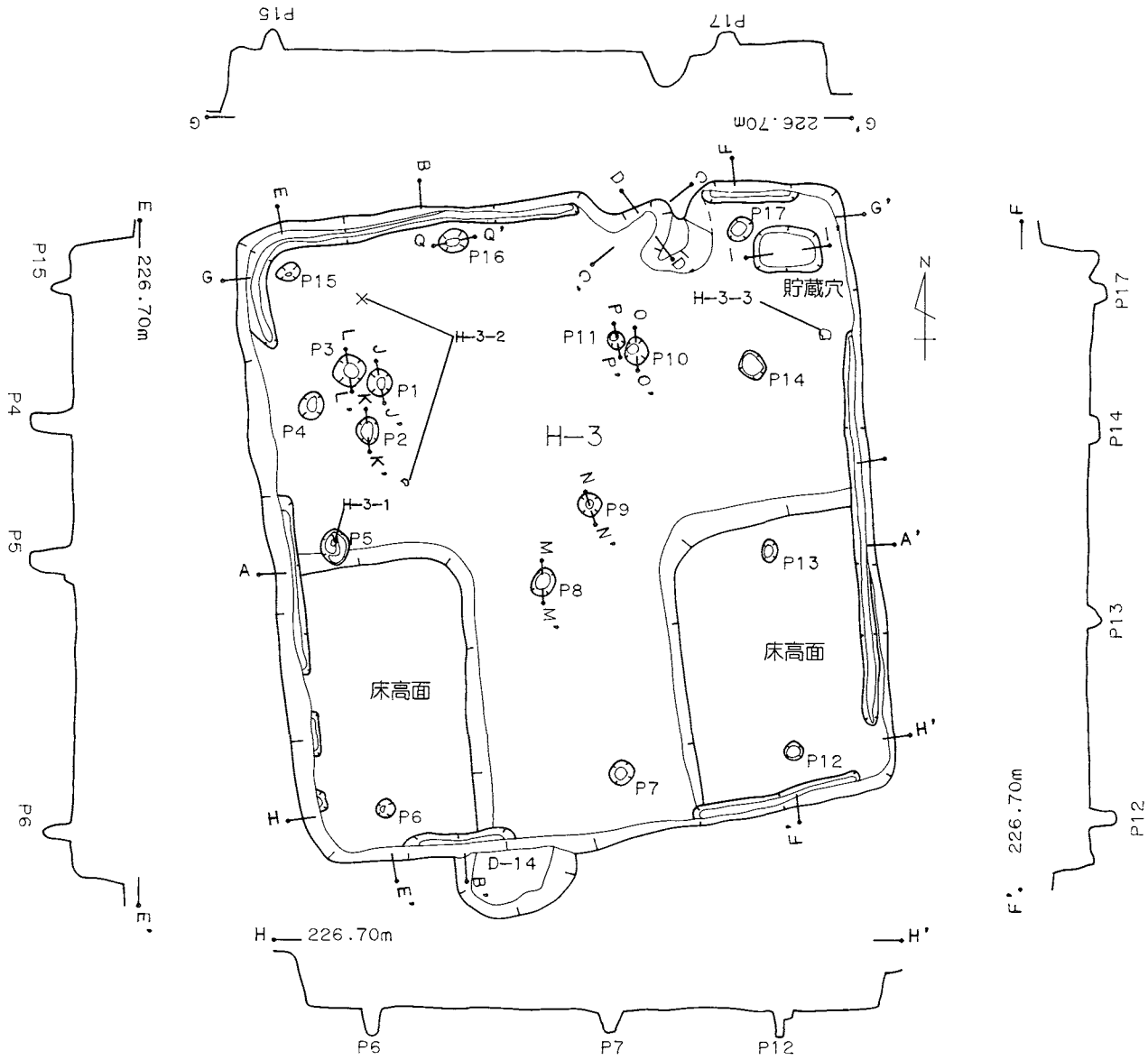
3号周溝状遺構　土層注記（H-H′、I-I′、J-J′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を3%とローム粒含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　1層より軽石・ロームを多く含む

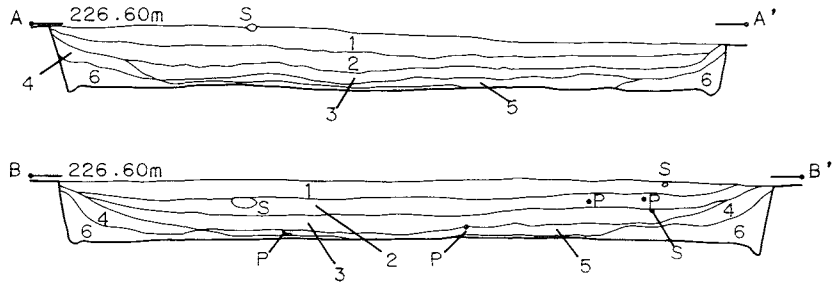


H-2号住居跡　P1　土層注記（E-E′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりなし　ロームを含む
2　黄褐色土　粘性・締まりなし　僅かに1層含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　ロームブロック含む

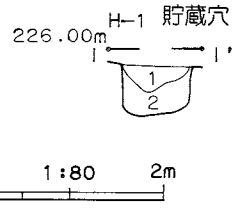
H-15号住居跡　土層注記（A-A′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒φ1～2㎜を2%含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒φ1～2㎜を2%とローム粒を僅かに含む
3　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒を僅かに含み、ローム粒を2層より多く含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ローム粒、ブロックを多く含む（10%以上）

第4図　H-1・2・15・16号住居跡、3号周溝状遺構平面・断面図

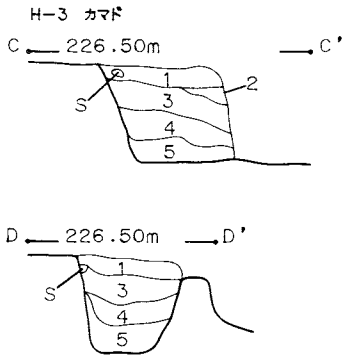


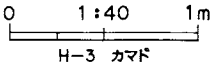


H-3号住居跡　貯蔵穴　土層注記（I-I'断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　黄色軽石φ1～3㎜を5％とローム粒と僅かに炭化物含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ローム粒と軽石φ1～2㎜を3％含む



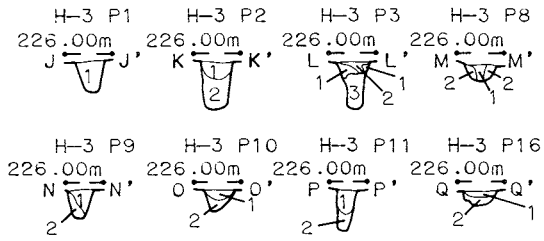
H-3号住居跡　土層注記（A-A'、B-B'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～3㎜を2％含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～5㎜を3％とロームブロックを僅かに含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～3㎜を5％とローム粒を多く含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　黒褐色ブロックを所々に含み、ローム粒を10％含む
5　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ローム粒を全体に含み、3層を含む
6　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ローム粒・ブロックを含み、軽石φ2～3㎜を3％含む





H-3号住居跡　カマド　土層注記（C-C'、D-D'断面）
1　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石φ2～5㎜と小石含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を1％含む
3　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒と焼土粒を含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　3層より焼土を多く含む
5　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　焼土・炭化物・灰を含む

第5図　H-3号住居跡平面・断面図



H-3号住居跡　P1　土層注記（J-J′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　黄色軽石φ1～2㎜を1％含み、ローム粒含む

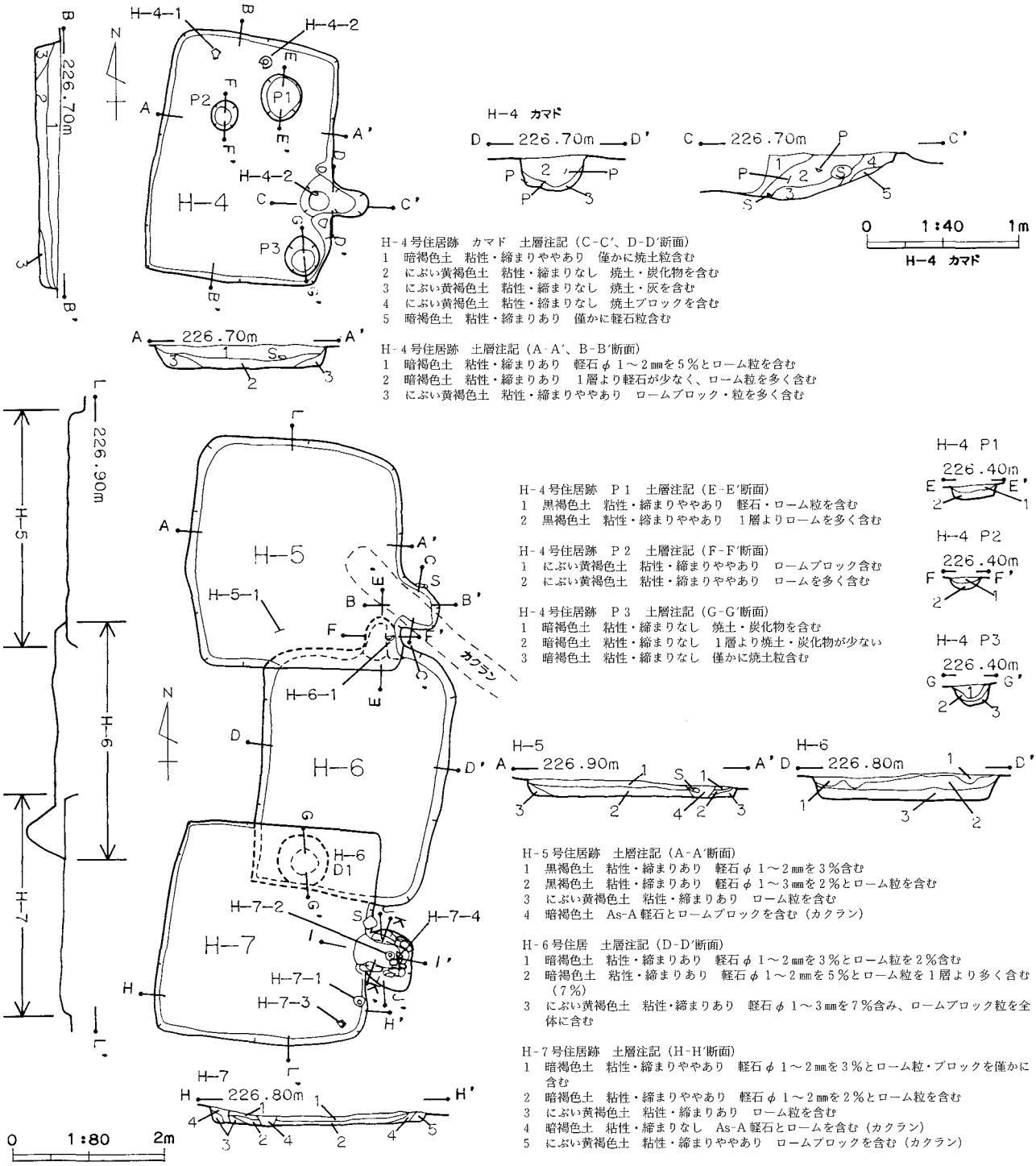
H-3号住居跡　P2・11　土層注記（K-K′、P-P′断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　黄色軽石粒を含み、ロームブロックと焼土粒含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　僅かに軽石粒含む

H-3号住居跡　P8　土層注記（M-M′断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　炭化物を多く含む
2　にぶい黄褐色土　1層より炭化物が少ない

H-3号住居跡　P9・10　土層注記（N-N′、O-O′断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ロームブロックを含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　1層よりローム土が多い

H-3号住居跡　P16　土層注記（Q-Q′断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ロームブロックと黒褐色ブロック含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ロームブロックを多く含む

H-3号住居跡　P3　土層注記（L-L′断面）
1　黄褐色ロームブロック
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒含む
3　暗褐色土　粘性・締まりあり　僅かに軽石粒含む



H-4号住居跡　カマド　土層注記（C-C′、D-D′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりややあり　僅かに焼土粒含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物を含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土・灰を含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土ブロックを含む
5　暗褐色土　粘性・締まりあり　僅かに軽石粒含む

H-4号住居跡　土層注記（A-A′、B-B′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を5％とローム粒を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　1層より軽石が少なく、ローム粒を多く含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ロームブロック・粒を多く含む

H-4号住居跡　P1　土層注記（E-E′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石・ローム粒を含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　1層よりロームを多く含む

H-4号住居跡　P2　土層注記（F-F′断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ロームブロック含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ロームを多く含む

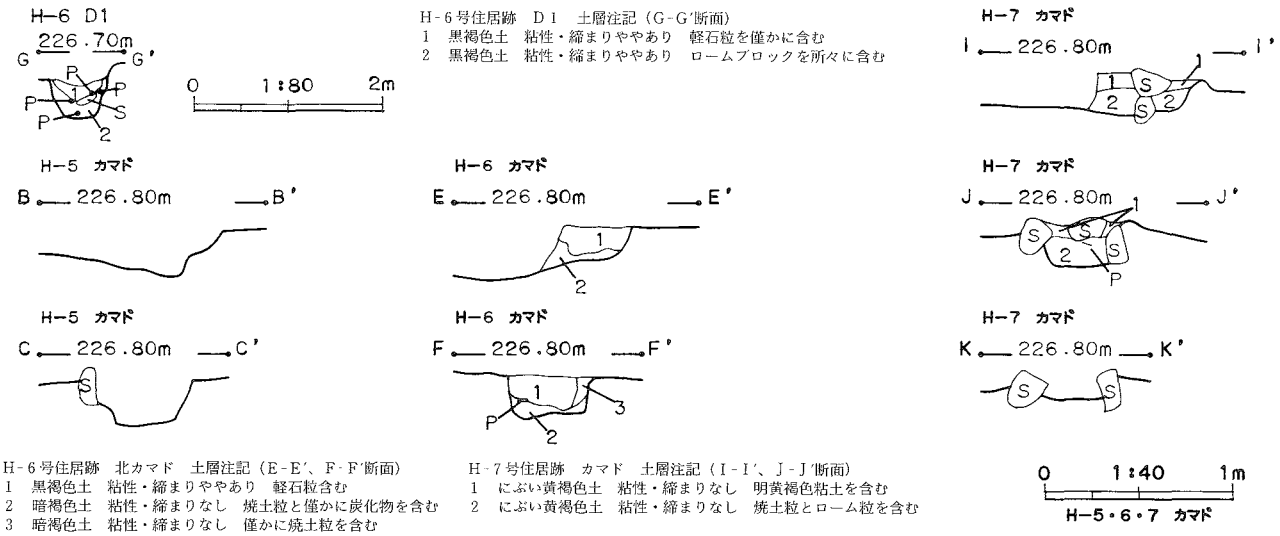
H-4号住居跡　P3　土層注記（G-G′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりなし　1層より焼土・炭化物が少ない
3　暗褐色土　粘性・締まりなし　僅かに焼土粒含む

H-5号住居跡　土層注記（A-A′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を3％含む
2　黒褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～3㎜を2％とローム粒を含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ローム粒を含む
4　暗褐色土　As-A軽石とロームブロックを含む（カクラン）

H-6号住居　土層注記（D-D′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を3％とローム粒を2％含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を5％とローム粒を1層より多く含む（7％）
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～3㎜を7％含み、ロームブロック粒を全体に含む

H-7号住居跡　土層注記（H-H′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を3％とローム粒・ブロックを僅かに含む
2　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を2％とローム粒を含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ローム粒を含む
4　暗褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石とロームを含む（カクラン）
5　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ロームブロックを含む（カクラン）

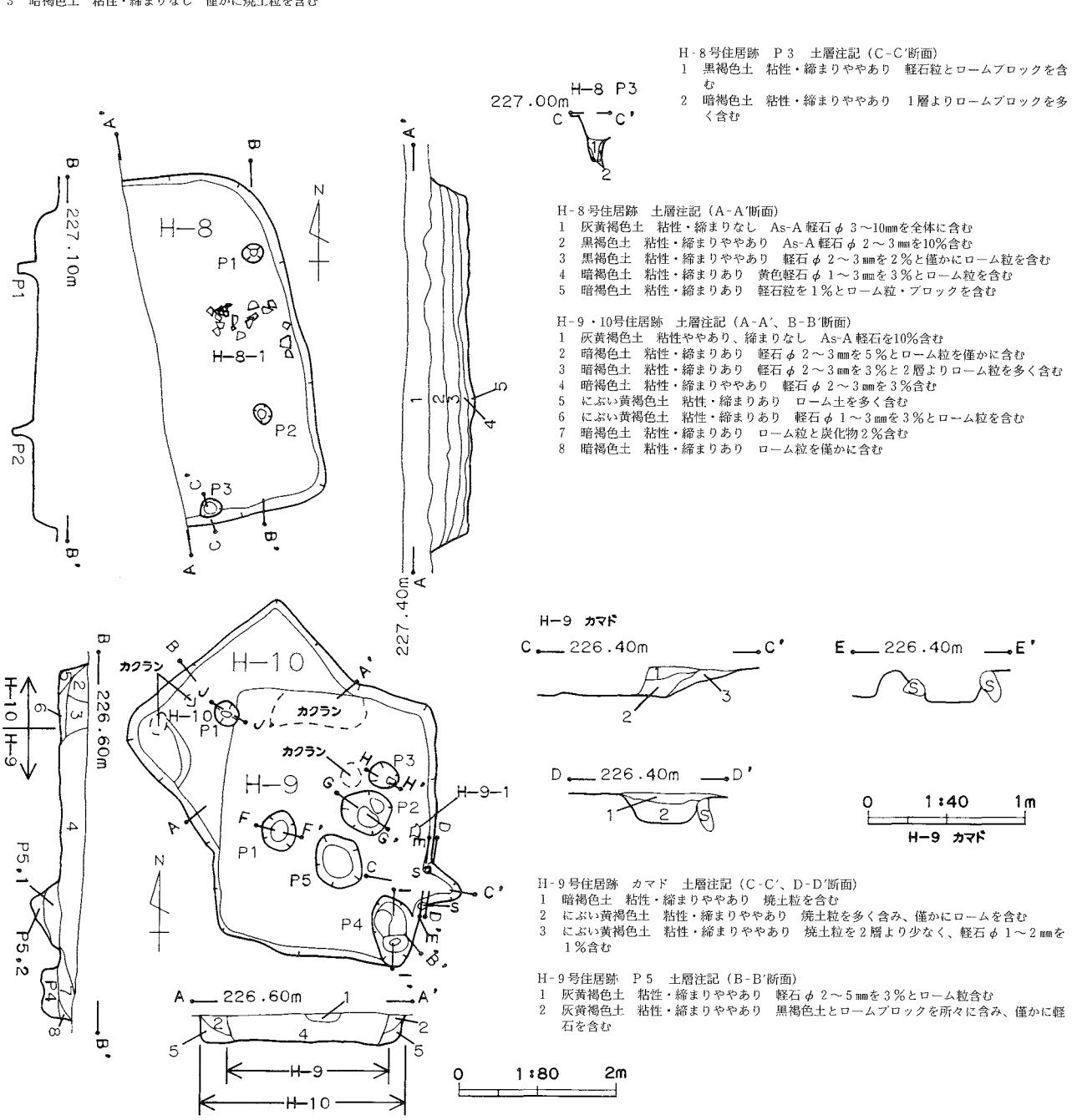
第6図　H-3～7号住居跡平面・断面図



H-6号住居跡　D1　土層注記（G-G′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石粒を僅かに含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　ロームブロックを所々に含む

H-6号住居跡　北カマド　土層注記（E-E′、F-F′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石粒含む
2　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土粒と僅かに炭化物を含む
3　暗褐色土　粘性・締まりなし　僅かに焼土粒を含む

H-7号住居跡　カマド　土層注記（I-I′、J-J′断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　明黄褐色粘土を含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土粒とローム粒を含む



H-8号住居跡　P3　土層注記（C-C′断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石粒とロームブロックを含む
2　暗褐色土　粘性・締まりややあり　1層よりロームブロックを多く含む

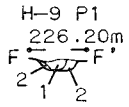
H-8号住居跡　土層注記（A-A′断面）
1　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石φ3～10㎜を全体に含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　As-A軽石φ2～3㎜を10%含む
3　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ2～3㎜を2%と僅かにローム粒を含む
4　暗褐色土　粘性・締まりあり　黄色軽石φ1～3㎜を3%とローム粒を含む
5　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒を1%とローム粒・ブロックを含む

H-9・10号住居跡　土層注記（A-A′、B-B′断面）
1　灰黄褐色土　粘性ややあり、締まりなし　As-A軽石を10%含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～3㎜を5%とローム粒を僅かに含む
3　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～3㎜を3%と2層よりローム粒を多く含む
4　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ2～3㎜を3%含む
5　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　ローム土を多く含む
6　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～3㎜を3%とローム粒を含む
7　暗褐色土　粘性・締まりあり　ローム粒と炭化物2%含む
8　暗褐色土　粘性・締まりあり　ローム粒を僅かに含む

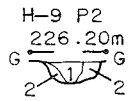
H-9号住居跡　カマド　土層注記（C-C′、D-D′断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土粒を含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　焼土粒を多く含み、僅かにロームを含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　焼土粒を2層より少なく、軽石φ1～2㎜を1%含む

H-9号住居跡　P5　土層注記（B-B′断面）
1　灰黄褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ2～5㎜を3%とローム粒含む
2　灰黄褐色土　粘性・締まりややあり　黒褐色土とロームブロックを所々に含み、僅かに軽石を含む

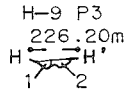
第7図　H-5～10号住居跡平面・断面図



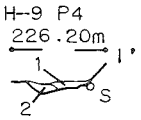
H-9号住居跡　P1　土層注記（F-F'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～5㎜を1%含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒と焼土粒を僅かに含む



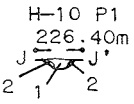
H-9号住居跡　P2　土層注記（G-G'断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土、炭化物を多く含む
2　にぶい黄褐色土　1層より炭化物が少なく、ロームブロック含む



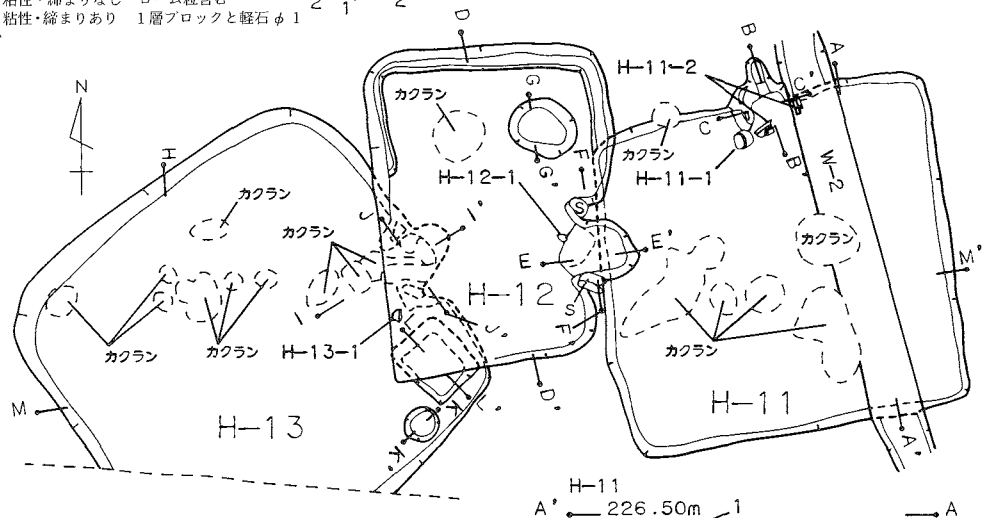
H-9号住居跡　P3　土層注記（H-H'断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　ローム粒含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　1層ブロックと軽石φ1～2㎜を1%含む

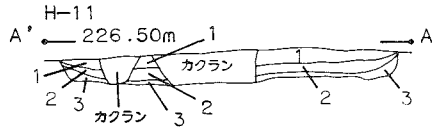


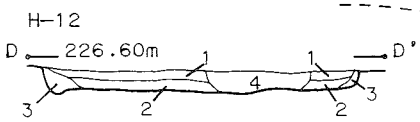
H-9号住居跡　P4　土層注記（I-I'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石と焼土粒を僅かに含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　軽石とローム粒含む



H-10号住居跡　P1　土層注記（J-J断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　軽石、ローム粒含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　軽石粒含む



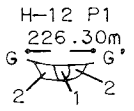




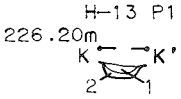
H-11号住居跡　土層注記（A-A'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を3%とローム粒を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を5%とローム粒を1層より多く含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　ローム粒、ブロックを含む

H-13号住居跡　土層注記（H-H'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を5%とローム粒を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を3%とローム粒、ブロックを1層より多く含む
3　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ2～3㎜を1%とローム粒、ブロックを多く含む
4　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石を全体に含む（新しい土層-カクラン）
5　暗褐色土　粘性・締まりなし　4層とローム粒、ブロックを含む（新しい土層-カクラン）

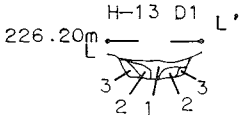
H-12号住居跡　土層注記（D-D'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を3%含む
2　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を5%とローム粒含む
3　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石粒とローム粒を僅かに含む
4　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石とロームブロック含む（カクラン層）

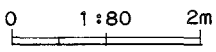


H-12住居跡　P1　土層注記（G-G'断面）
1　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ロームブロック2%と軽石含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　1層よりロームブロックを多く含む

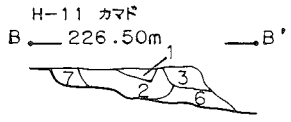


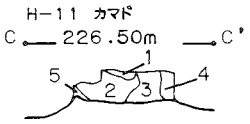
H-13号住居跡　P1　土層注記（K-K'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土、炭化物、ロームブロックを含む
2　暗褐色土　粘性・締まりなし　1層より焼土、炭化物が少ない



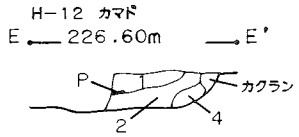


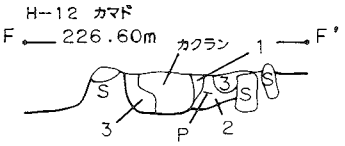
H-13号住居跡　D1　土層注記（L-L'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりなし　ローム土と焼土粒を含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　ロームブロックを含む
3　にぶい黄褐色土　2層よりロームブロックを多く含む



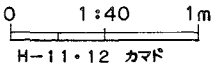


H-11号住居跡　カマド　土層注記（B-B'C-C'断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりなし　ローム粒を含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土・ローム粒含む
3　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土粒・ローム粒を多く含む
4　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石・ロームブロックを含む
5　黄褐色ローム　カマドの左袖?
6　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土を多く含み、ローム粒含む
7　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土・炭化物を僅かに含む

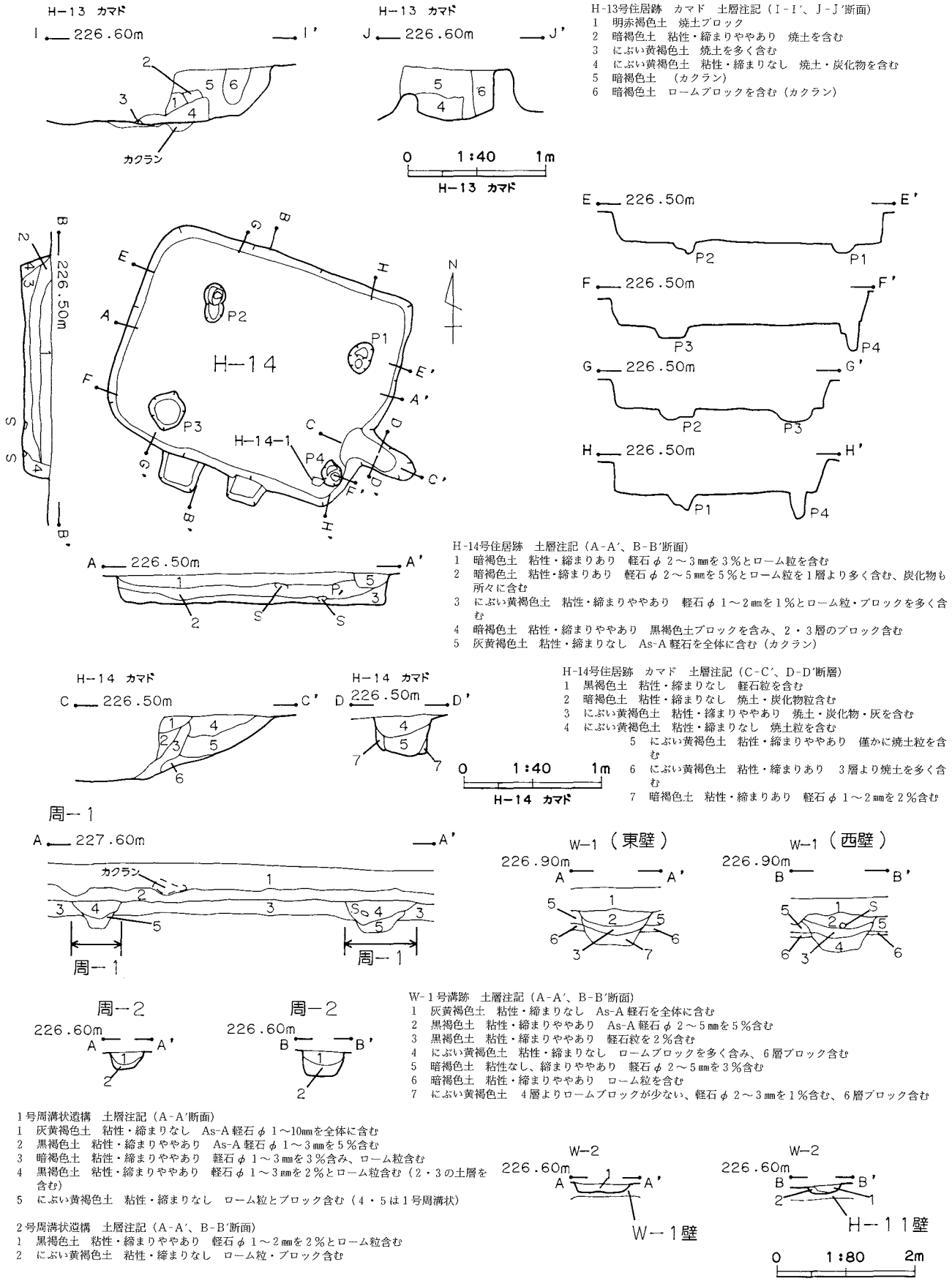




H-12号住居跡　カマド　土層注記（E-E'、F-F'断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物を含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土ブロックを多く含む
3　にぶい黄褐色土　焼土・ローム土を含む
4　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土粒とローム土を僅かに含む



第8図　H-9～13号住居跡平面・断面図



H-13号住居跡　カマド　土層注記（I-I'、J-J'断面）
1　明赤褐色土　焼土ブロック
2　暗褐色土　粘性・締まりややあり　焼土を含む
3　にぶい黄褐色土　焼土を多く含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物を含む
5　暗褐色土　（カクラン）
6　暗褐色土　ロームブロックを含む（カクラン）

H-14号住居跡　土層注記（A-A'、B-B'断面）
1　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～3㎜を3％とローム粒を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ2～5㎜を5％とローム粒を1層より多く含む、炭化物も所々に含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を1％とローム粒・ブロックを多く含む
4　暗褐色土　粘性・締まりややあり　黒褐色土ブロックを含み、2・3層のブロック含む
5　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石を全体に含む（カクラン）

H-14号住居跡　カマド　土層注記（C-C'、D-D'断層）
1　黒褐色土　粘性・締まりなし　軽石粒を含む
2　暗褐色土　粘性・締まりなし　焼土・炭化物粒含む
3　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　焼土・炭化物・灰を含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　焼土粒を含む
5　にぶい黄褐色土　粘性・締まりややあり　僅かに焼土粒を含む
6　にぶい黄褐色土　粘性・締まりあり　3層より焼土を多く含む
7　暗褐色土　粘性・締まりあり　軽石φ1～2㎜を2％含む

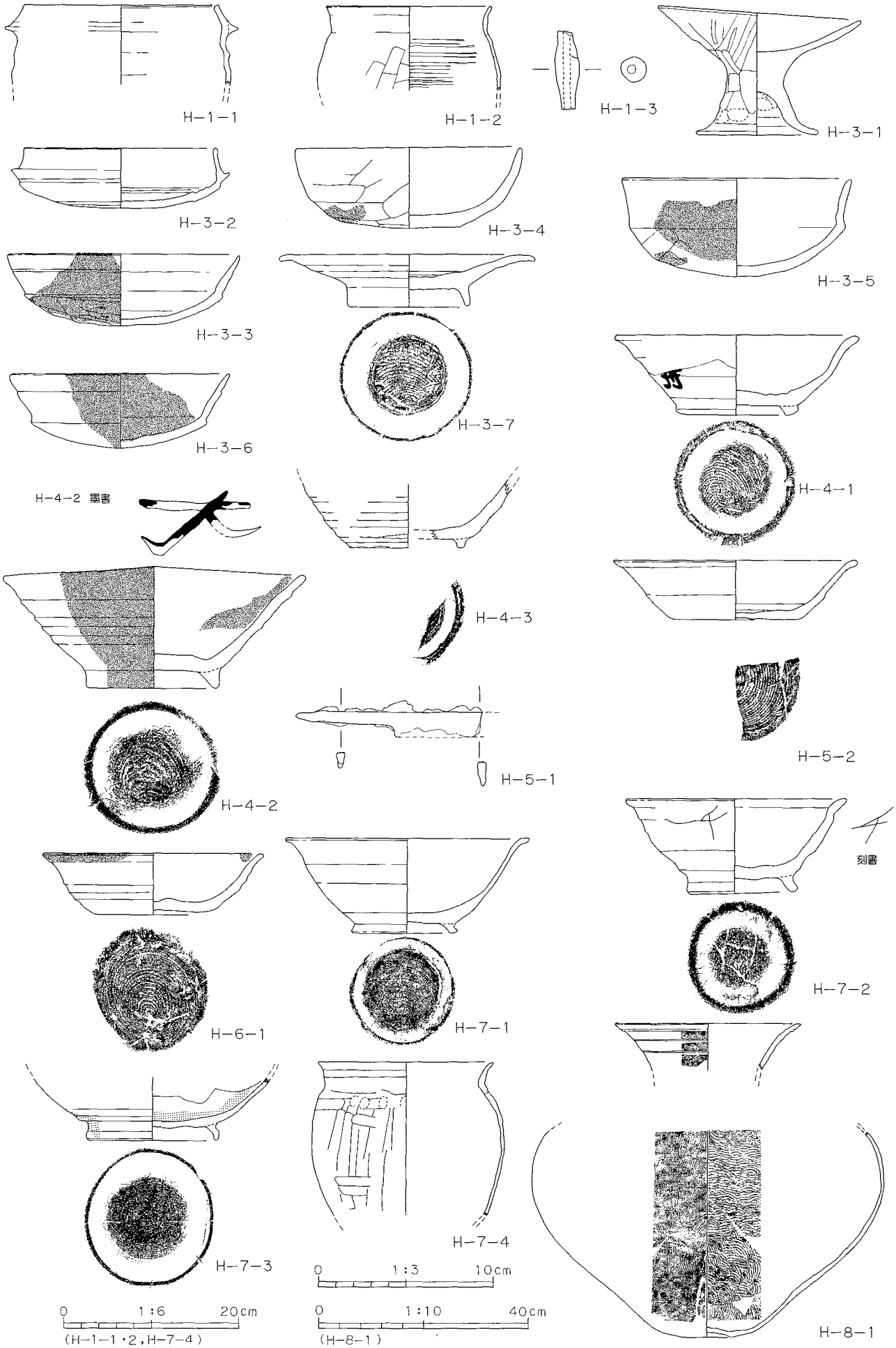
W-1号溝跡　土層注記（A-A'、B-B'断面）
1　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石を全体に含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　As-A軽石φ2～5㎜を5％含む
3　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石粒を2％含む
4　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　ロームブロックを多く含み、6層ブロック含む
5　暗褐色土　粘性なし、締まりややあり　軽石φ2～5㎜を3％含む
6　暗褐色土　粘性・締まりややあり　ローム粒を含む
7　にぶい黄褐色土　4層よりロームブロックが少ない、軽石φ2～3㎜を1％含む、6層ブロック含む

1号周溝状遺構　土層注記（A-A'断面）
1　灰黄褐色土　粘性・締まりなし　As-A軽石φ1～10㎜を全体に含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　As-A軽石φ1～3㎜を5％含む
3　暗褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～3㎜を3％含み、ローム粒含む
4　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～3㎜を2％とローム粒含む（2・3の土層を含む）
5　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　ローム粒とブロック含む（4・5は1号周溝状）

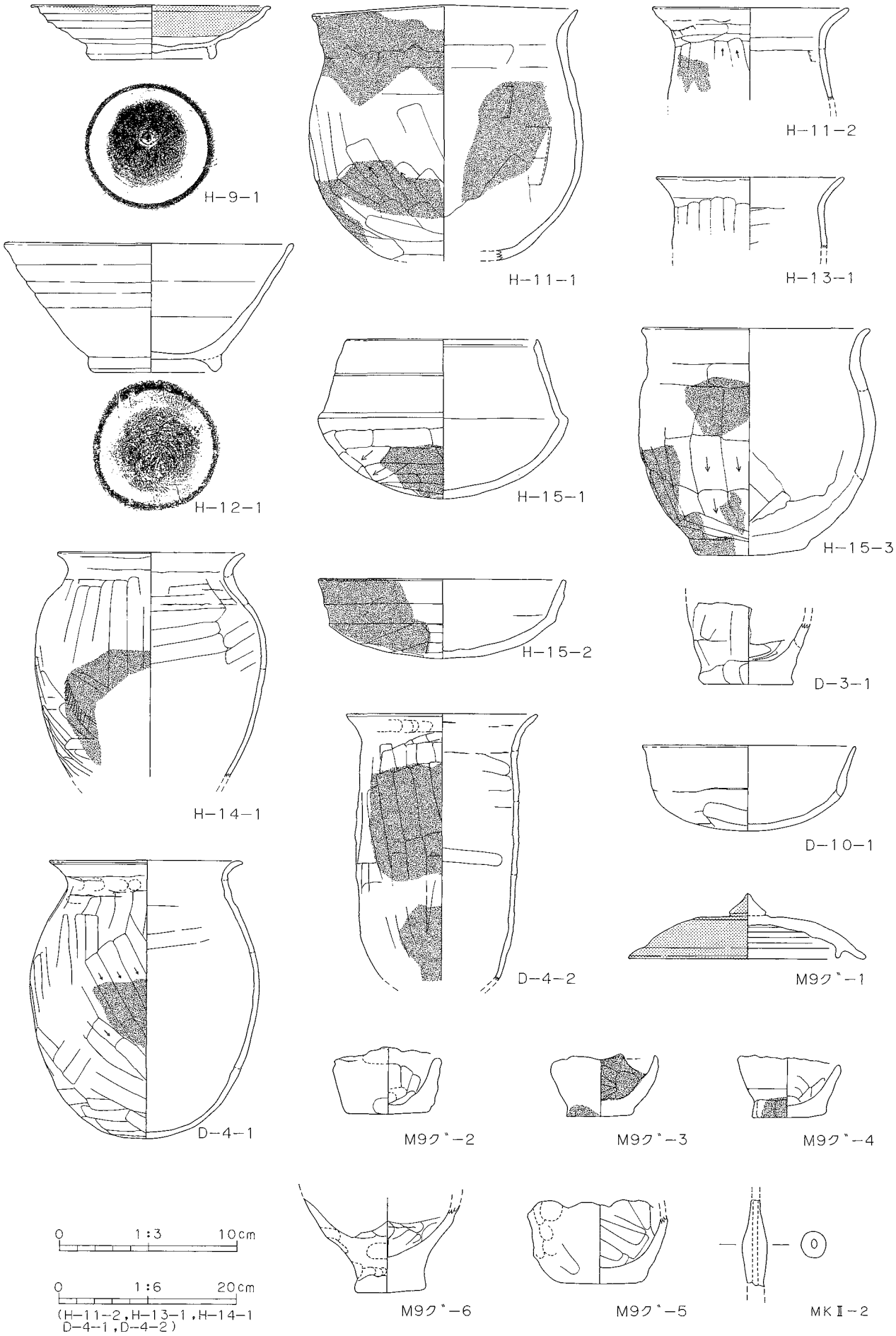
2号周溝状遺構　土層注記（A-A'、B-B'断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石φ1～2㎜を2％とローム粒含む
2　にぶい黄褐色土　粘性・締まりなし　ローム粒・ブロック含む

W-2号溝跡　土層注記（A-A'、B-B'断面）
1　黒褐色土　粘性・締まりややあり　As-A軽石φ2～3㎜を5％、僅かにローム粒含む
2　黒褐色土　粘性・締まりややあり　軽石粒を3％とロームブロックを含む

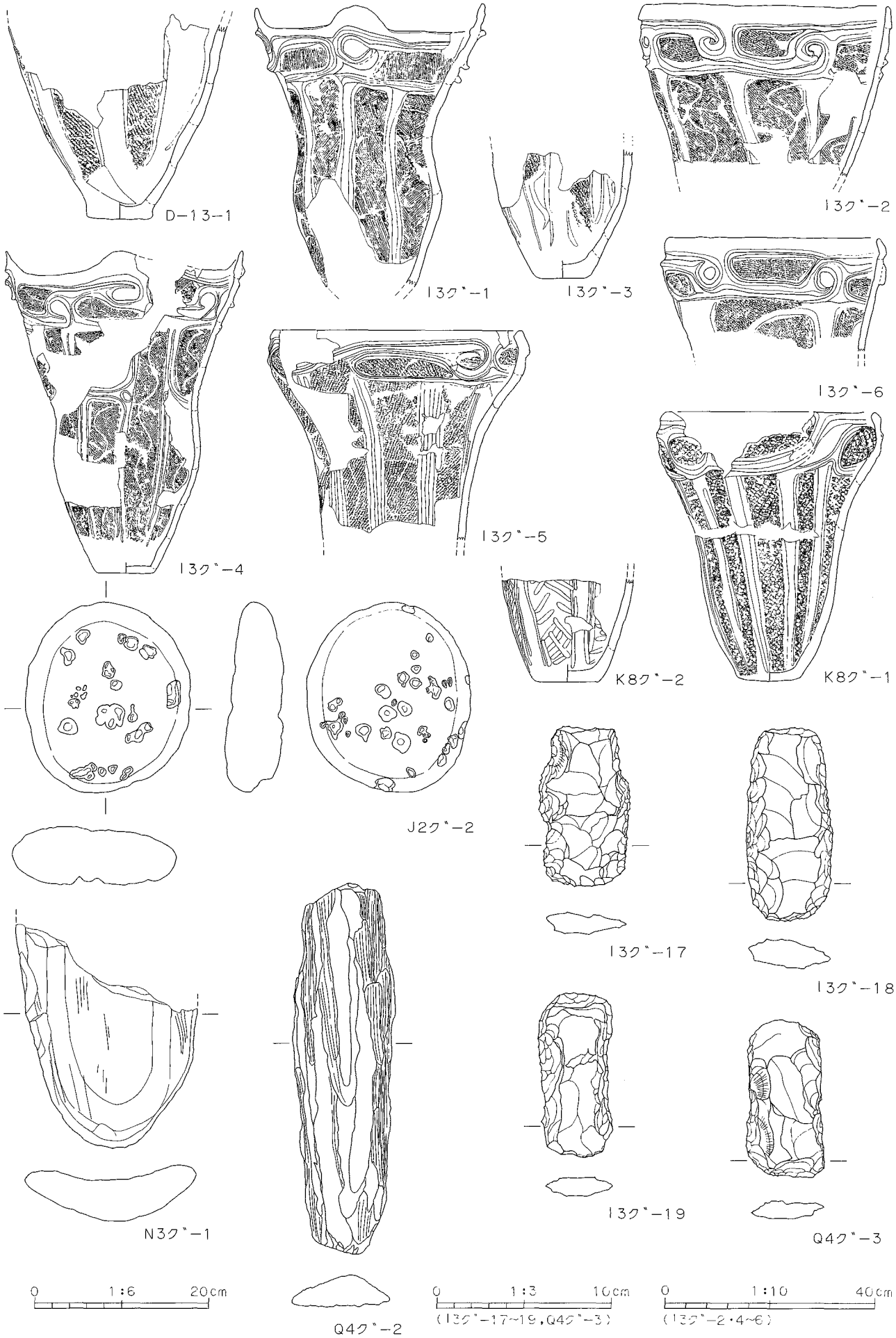
第9図　H-13・14号住居跡、1・2号周溝状遺構、W-1・2号溝平面・断面図



第10図　H-1・3～8号住居跡出土遺物実測図



第11図　H−9・11〜15号住居跡、D−3・4・10号、M9グリッド、MK II出土遺物実測図



第12図　D-13号、グリッド出土遺物実測図

調査区全景

調査前全景

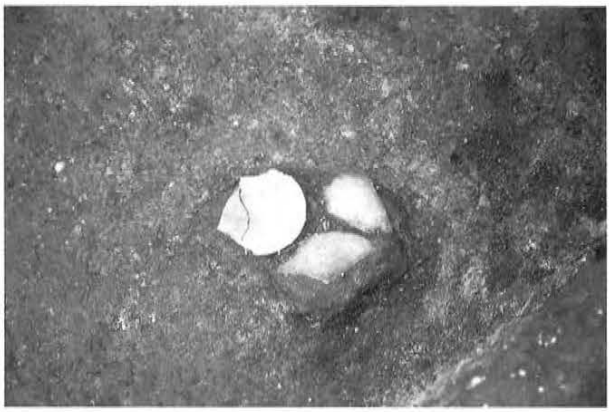
H－1・16号住居跡、3号周溝状遺構全景

H－2・15号住居跡全景

H－15号住居跡遺物出土状況

図版2

H－3号住居跡全景



H－3号住居跡遺物出土状況

H－3号住居跡カマド全景

H－4号住居跡全景

H－4号住居跡遺物出土状況

H－5～7号住居跡全景

H－5号住居跡遺物出土状況

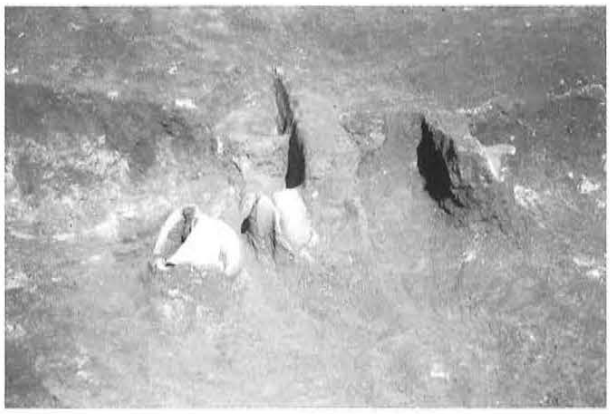
H－7号住居跡遺物出土状況

H－7号住居跡カマド全景

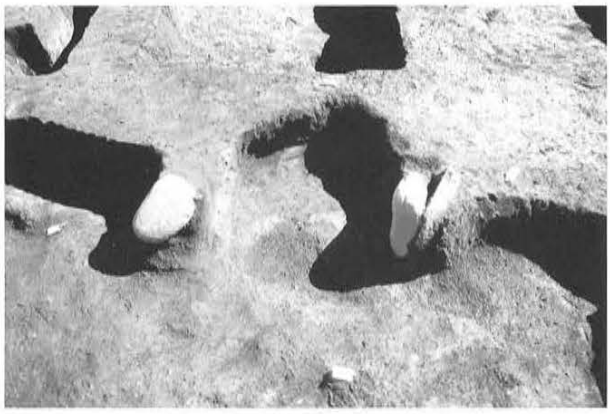
H－8号住居跡全景

H－9・10号住居跡全景

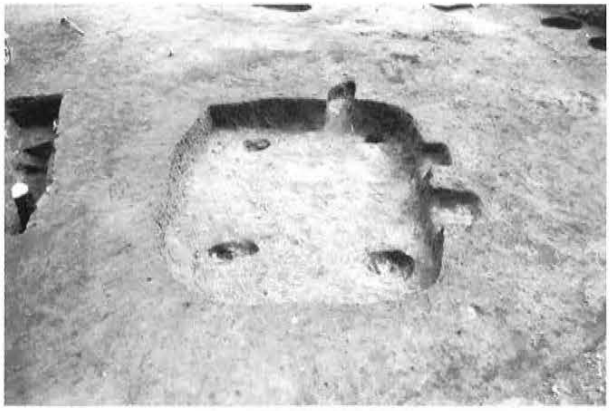
H－11～13号住居跡全景



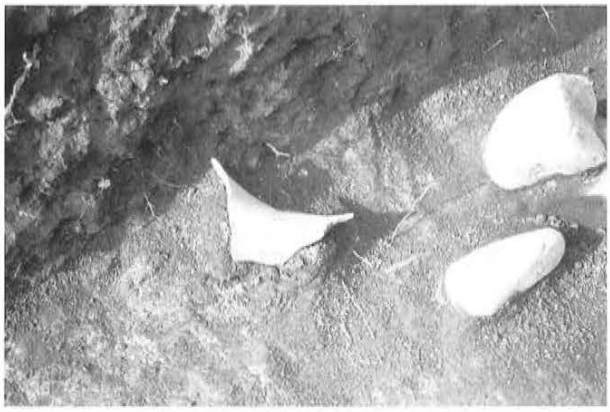
H－11号住居跡遺物出土状況



H－12号住居跡カマド全景



H－14号住居跡全景

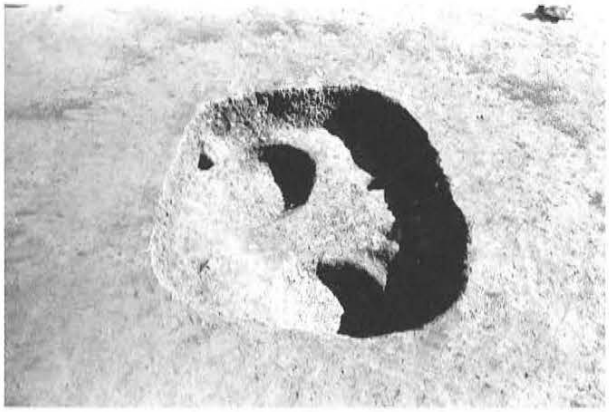


H－14号住居跡遺物出土状況

図版4

1号周溝状遺構全景

2号周溝状遺構全景



D－4号土坑全景

D－4号土坑遺物出土状況

D－10号土坑全景

I－4グリッド付近ピット群全景

1号溝全景

2号溝全景

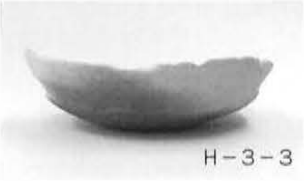
H-1-1

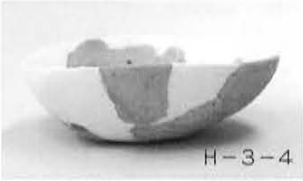
H-1-2

H-1-3

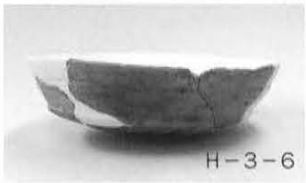
H-3-1

H-3-2

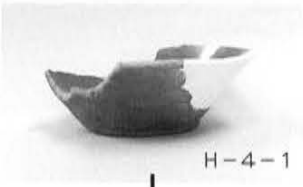

H-3-3


H-3-4

H-3-5


H-3-6

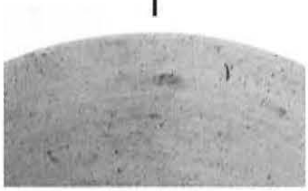
H-3-7


H-4-1

H-4-2

H-4-3

H-5-1



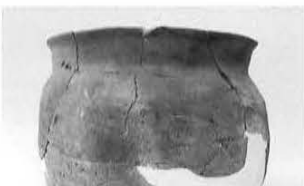
H-5-2

H-6-1

H-7-1

H-7-2

H-7-3

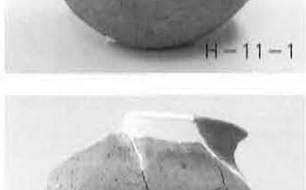

H-7-4

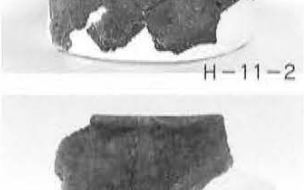
H-8-1

H-11-1

H-11-2

H-9-1


H-14-1


H-15-3

H-12-1

H-13-1

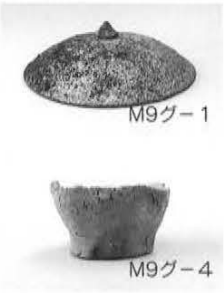
H-15-1

H-15-2

図版6

D－3－1

D－4－2


M9グ－1

M9グ－2

M9グ－3

MKⅡ－2

M9グ－4

M9グ－5

M9グ－6

D－4－1

D－10－1

D－13－1

I3グ－1

I3グ－2

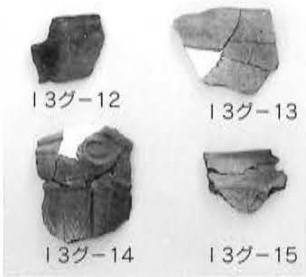
I3グ－3

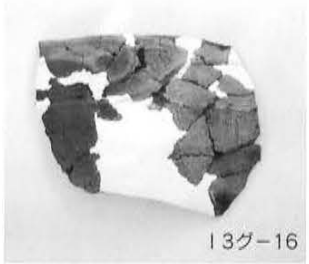
I3グ－4

I3グ－5

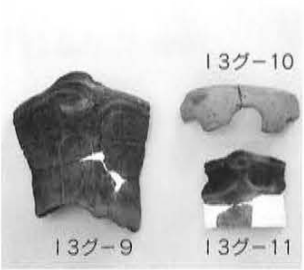
I3グ－7　I3グ－8

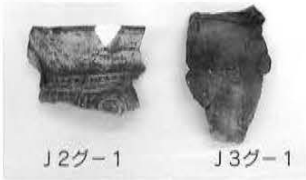
I3グ－6

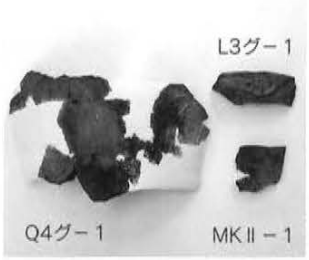

I3グ－12　I3グ－13　I3グ－14　I3グ－15

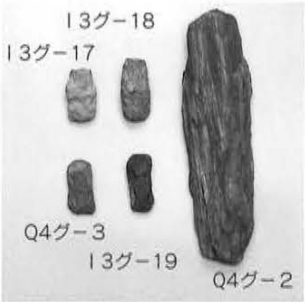

I3グ－16

I3・4グ－1


I3グ－10　I3グ－9　I3グ－11


J2グ－1　J3グ－1


L3グ－1　Q4グ－1　MKⅡ－1


I3グ－18　I3グ－17　Q4グ－3　I3グ－19　Q4グ－2

K8グ－1

K8グ－2

N3グ－1　J2グ－2

縄文前期（諸磯式）

抄　　録

フリガナ	マツイダコウギョウダンチニイセキ
書名	松井田工業団地II遺跡発掘調査報告書
副書名	信越化学工業株式会社組立棟及び事務棟建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	松井田町文化財調査報告書
シリーズ番号	第13集
編著者名	スナガ環境測設株式会社　荻野博巳
発行	松井田町教育委員会
発行機関所在地	〒379—0292　群馬県碓井郡松井田町大字新掘245番地　027—393-1111
発行年月日	西暦2005年3月25日
フリガナ遺跡名	マツイダコウギョウダンチニイセキ
所収遺跡名	松井田工業団地II遺跡
フリガナ所在地	グンマケンウスイグンマツイダマチオオアザヒトミアザキタハラ
所収遺跡所在地	群馬県碓氷郡松井田町大字人見字北原60—2他

市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
104019	3837	36°17′37″	138°50′28″	20040903	20041026	1980m²	工場増設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
松井田工業団地II遺跡	遺物包含層	縄文時代	包含層	縄文土器・石器	サブトレンチを入れたが遺構検出されず
	集落跡	古墳時代 平安時代 不明	住居跡5軒 住居跡8軒 3軒	土師・須恵器、 灰釉陶器、鉄製品	
	周溝状遺構	平安時代以前	3基	縄文土器、土師・須恵器片	
	土坑	古墳時代～中世	14基	縄文土器、土師・須恵器	
	ピット	中近世	57基	縄文土器、土師・須恵器片	
	溝	中近世	2条	縄文土器片	

松井田工業団地II遺跡

2005年3月18日　印刷
2005年3月25日　発行

発行　松井田町教育委員会

編集　スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地の1

印刷　朝日印刷工業株式会社